

國立政治大學日本語文學系

碩士論文

指導教授：王淑琴 副教授

肯定表現と共起する「ぜんぜん（全然）」
について

研究生：蕭雅婷 撰

中華民國一〇四年七月

肯定表現と共起する「ぜんぜん(全然)」について 要旨

本稿は肯定表現と共起する「ぜんぜん(全然)」に着目し、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を通して、「ぜんぜん(全然)」の用例を収集する。収集したデータに基づき、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現及びその特徴を考察する。また、肯定表現と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」はどのような意味用法を持つのか、どのような言語形式と共起しやすいのか。本稿はそれぞれについて明らかにする。

本稿は5章で構成されている。まず、序章では研究動機と目的、研究範囲と集計方法、および研究手順を述べる。そして、第1章では先行研究及び問題点を述べる。第2章では現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を通して、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の分布状況を調べる。そして、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴を考察し、その共起傾向を見る。そこから反映される肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の副詞における位置づけについて述べる。

第3章では「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法、およびその意味用法を持つ理由について述べる。第4章では「明示的比較形式」以外に、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」とともに現れやすい言語形式を調べる。また、そのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について考察する。最後に、第5章では本稿の結論と今後の課題を述べる。

キーワード：「ぜんぜん(全然)」、肯定表現、共起、副詞、意味用法

摘要

本研究特別將焦點放在和肯定表現共起的「ぜんぜん(全然)」上，並透過「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」之語料庫來收集「ぜんぜん(全然)」的使用例。根據收集之資料以考察和「ぜんぜん(全然)」共起的肯定表現為何，及其之特徵。又本研究也將針對和肯定表現共起的「ぜんぜん(全然)」之意義用法，及容易和其共同使用的語言形式等逐一進行考察。

本論文主要由五大章節構成。首先，序章闡述研究動機和目的、研究範圍和計數方法、研究次序等。接下來，第1章就先行研究以及其中相關的問題點做說明。第2章則透過「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」之語料庫來調查和「ぜんぜん(全然)」共起之肯定表現的分布狀況，並考察和「ぜんぜん(全然)」共起的肯定表現之特徵為何。又藉由觀察「ぜんぜん(全然)」之共起傾向，來探討其所反映出的副詞定位問題。

第3章則針對「ぜんぜん(全然)+肯定表現」之意義用法、及之所以會有此種意義用法的原因做一闡述。第4章則調查除了「明示的比較形式」以外，還有什麼樣地語言形式容易和「ぜんぜん(全然)+肯定表現」一同使用。再者，其容易和「ぜんぜん(全然)+肯定表現」共起的理由也將詳加論述。最後，第5章將彙整本論文的結論及闡述今後的課題。

關鍵字: 「ぜんぜん(全然)」、肯定表現、共起、副詞、意義用法

謝辭

終於順利的完成論文，內心的感動難以言喻，要感謝的人也不勝枚舉。首先我最想要感謝的人是我的指導教授王淑琴老師。回想一開始要提題目發表時，我自認為無法在時限內達成，是老師說「一定可以，來得及！」，這句話深深地鼓勵了我，讓我不再畫地自限，讓我鼓起勇氣繼續嘗試。在寫論文途中經歷了不少「撞牆期」，停滯了很長一段時間，也曾經想要放棄，可是想到老師期間對我的關懷與鼓勵就無法真的決意放棄。曾經一段時間很害怕夜晚的來臨，入睡、作夢，總是會夢到老師尋問我論文的進度，我總是羞愧的答不出來。後來，還是老師幫助了我，在我好不容易提筆寫下些許章節，生澀的文法、拙劣的內容，當我早已做好被罵的準備時，沒想到老師非但沒責備我，反而首先關心我的近況，進而溫柔又細心的給我許多建議，先前的緊張與擔心仿佛在當下就化作一道暖流，溫暖了我的內心。我想如果沒有老師這麼用心地關懷與指導，我是不會有完成論文的一天的，真的很謝謝您，老師，這份感激是無論用多少「謝謝」也傳達不完的，誠心地再次致上我由衷的感謝，謝謝您，王老師！

接下來要謝謝擔任口試委員的蘇文郎老師和東吳大學的陳世娟老師，細心地發現了許多不夠周詳之處，並提供了非常多寶貴的意見，讓本篇論文許多思慮不周的地方能夠獲得改善，十分感謝兩位教授的指導與建議。

還要感謝系辦的各位，特別是小花助教和欣瑜學姐，告訴我許多關於論文準備及發表的流程和注意事項。尤其是欣瑜學姐，不厭其煩地告訴我很多細節該如何處理，也為我解答了許多關於論文的相關問題，更在我擔心煩躁的時候分享了自身的經驗來鼓勵我，真的很感激學姐！

再來我還要感激一直以來待在我身邊不斷支持鼓勵我的家人與朋友，因為有你們的陪伴我才有繼續努力下去的動力，也謝謝你們至始至終都一直信任著我，相信我能夠順利完成論文，我的心靈因為有你們而更美好充實，也因此才造就了寫論文的靈感與智慧，感激不盡，我愛你們！

最後，其實要感謝的人事物真的不勝其數，我想是再怎麼列舉也列舉不完的，只好總的來說：「謝謝大家！」

目次

序章	1
0.1 研究動機及び目的	1
0.2 研究範囲と集計方法	2
0.3 研究手順	4
0.4 本稿の構成	4
第1章 先行研究及び問題点	6
1. 先行研究	6
1.1 副詞研究における「ぜんぜん(全然)」の位置づけ	6
1.1.1 陳述副詞としての「ぜんぜん(全然)」	6
1.1.2 程度副詞としての「ぜんぜん(全然)」	8
1.1.3 量程度の副詞としての「ぜんぜん(全然)」	10
1.2 「ぜんぜん(全然)」の意味用法についての研究	11
1.2.1 辞書における記述	11
1.2.2 森田(1977)	13
1.2.3 茅野他(1993)	14
1.2.4 工藤(1999)	14
1.2.5 服部(2007)	16
1.3 問題点	19
第2章 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現	22
2.1 はじめに	22
2.2 先行研究と問題点	22
2.3 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現	24
2.3.1 現代日本語書き言葉均衡コーパスによる実態調査	24
2.3.2 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現のグループ分け	25
2.4 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴及び傾向	31

2.4.1	表4における「その他」の品詞分け	31
2.4.2	「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴	36
2.4.3	「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の副詞における位置づけ	41
2.5	本章のまとめ	48
第3章「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法		50
3.1	はじめに	50
3.2	先行研究と問題点	50
3.3	「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法	51
3.3.1	意味用法	51
3.3.2	野田(2000)の調査について	56
3.3.3	「ぜんぜん(全然)+否定表現」との関連	61
3.4	本章のまとめ	65
第4章「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい言語形式		67
4.1	はじめに	67
4.2	先行研究と問題点	67
4.3	「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の言語形式	69
4.3.1	「ぜんぜん(全然)+平気・大丈夫・OK・良い・普通・いける ・余裕・まし」の言語形式	69
4.3.2	「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由	78
4.4	本章のまとめ	85
第5章 結論		86
5.1	本稿の結論	86
5.2	今後の課題	87
付録	「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現	89



序章

0.1 研究動機及び目的

副詞「ぜんぜん(全然)」について、もっとも基本的な用法はといえば、「ぜんぜん(全然)～ない」という否定を意味するパターンが自然に浮かぶだろう。特に、日本語学習者にとっては、「ぜんぜん(全然)～ない」はすでに定式化したかのようなのである。たとえば、例(1)～(3)のような例は、「～ない」という「文法的な否定形式¹」を呼応する典型的な副詞「ぜんぜん(全然)」の用例である。(以下は、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)²による用例である。)

- (1) 自分でも妊娠してるなんて全然気づいてなかったのよ。
(『冷たくて優しい指先』)
- (2) とくに商品到着の連絡なんて、無くても全然気になりません。
(Yahoo!知恵袋)
- (3) だいたい女性に関していえば、日本では若いのは全然魅力がなくて憎らしい。
(『表の論理・裏の論理』)

しかし、実際の言語使用においては、否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」の用例も少なくない。次のような用例が見られる。(同じく現代日本語書き言葉均衡コーパスにより)

- (4) K-1 戦士の方が全然凄いですよね。
(Yahoo!知恵袋)

¹ 「文法的な否定形式」は、金水・工藤・沼田(2000)によると、基本的に<述語否定=文否定>であって、主語と述語とのむすびつき(ネクサス)を否定するものである。

² 現代日本語書き言葉均衡コーパス: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ)

- (5) 免許区分と車両区分はぜんぜん別物。 (Yahoo!知恵袋)
- (6) 男女間の友情は、成立出来る人からしたら、ぜんぜん普通のことで、逆に成立しない人からしたら絶対にできない行為だと思います。 (Yahoo!知恵袋)
- (7) 明日は抜歯の予定なので主治医に確認したところ全然OKでした。 (Yahoo!ブログ)
- (8) さすがに本格的に降ってくると地面に水たまりができちゃうのだが、多少の雨なら全然平気。 (『CAR BOY』)
- (9) 「改革」という言葉と「開放」という言葉は全然違いますね。 (『北朝鮮問題をどう解くか』)
- (10) 前の旦那は三歳上でした。全然ダメな人、子どもでした。 (Yahoo!知恵袋)

このように、「ぜんぜん(全然)」は、実際の言語使用では、日本語学習者が教科書で学んだ用法以外にもほかの使い方がある。

このような「文法的な否定形式(「～ない」「～ず」など)」を呼応しない、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」は、どのような語と共起するか。そして、共起する語はどのような特徴があるのか。また、「ぜんぜん(全然)」はどのような共起傾向があるか。そのような共起傾向は、どのようなことを反映しているのか。さらに、肯定表現と共起する「ぜんぜん(全然)」はどのような意味用法を持つのか、どのような言語形式と共起しやすいのか。本稿はそれぞれについて明らかにしたい。

0.2 研究範囲と集計方法

本稿は主に現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して、副詞「ぜんぜん(全然)」が用いられた例を収集する。すべての「ぜんぜん(全然)」の用例³の中から、文法的に否定形式と共起する語例と後略される例を除外し、文法的に肯定形式と共起する用例⁴（否定の意味を表す語と共起する用例⁵も含める）を取り上げ、分析を行う。

集計方法について、たとえば述語「違う」と共起する用例を数える場合は、以下の例(11)～(13)のように、「違う」の諸活用形(ただし、ここでは肯定形式と共起するという前提があるため、未然形を除く)を計算に入れる。また、例えば、例(14)～(17)のように、「ぜんぜん(全然)」と「違う」が離れているものも集計する。

◎ 「違う」の諸活用形：

- (11) が、それはお久が想像していた少女とは全然ちがった人柄からくるものだった。 (『徳川家康』)
- (12) 男と女と言わず、オスとメスという言い方をすると、ぜんぜん違ってきます。 (『夫と妻』)
- (13) ビーズコーナーも、置き方がいつものお店と全然違うので、興味津々！ (Yahoo! ブログ)

◎ 「ぜんぜん(全然)」と「違う」が離れているもの：

- (14) 全然日本と違うのです。 (『知と美のハーモニー』)

³総計 5872 例。

⁴総計 1591 例。

⁵否定の意味を表す語は、たとえば、「非常識だ」「無関心だ」「不可能だ」「だめだ」「違う」「悪い」「別だ」などがある。

(15) 「おはよ。なんだよ、昨日の晩と全然、態度が違うじゃん」

(『いつだって今が始まり』)

(16) 同じ「サニー」のレンタカーでもアメリカや日本で借りるオートマチックのもの（あれはただの移動の手段だ）とは、ぜんぜん雰囲気が違う。

(『もし僕らのことばがウィスキーであったなら』)

(17) 途中を飛ばして単語だけをつなげれば、全然意味が違ってしまいます。

(『Dr. コパの「人脈」風水』)

0.3 研究手順

本稿では、これまでの研究を踏まえたうえで、このような否定と呼応しない、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」に着目し、以下のことについて詳しく考察していきたい。

- ① どのような語と共起するか。
- ② 共起する語はどのような特徴があるか。
- ③ どのような共起傾向があるか。そのような傾向は、どのようなことを反映しているのか。
- ④ 「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」はどのような意味用法を持つか。
- ⑤ どのような言語形式と共起しやすいか。なぜか。

また、データの収集方法に関しては、前節で述べたように、本稿は主に現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して、必要な用例を収集する。ただ、用例がない、或いは少ない場合は検索エンジンなどを通して例を収集する場合もある。そして、先行研究による指摘や資料を踏まえながら、コーパスや検索エンジンで集めてきた新たな資料に基づき、それぞれの問題点を解決していく。

0.4 本稿の構成

序章では研究動機と目的、研究範囲と集計方法、および研究手順を述べた。第1章では先行研究及び問題点を述べる。第2章では現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を通して、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の分布状況を調べる。そして、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴を考察し、その共起傾向を見る。そこから反映される肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の副詞における位置づけについて述べる。第3章では「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法、およびその意味用法を持つ理由について述べる。第4章では「明示的比較形式」以外に、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」とともに現れやすい言語形式を調べる。また、そのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について考察する。最後に、第5章では本稿の結論と今後の課題を述べる。



第1章

先行研究及び問題点

1. 先行研究

「ぜんぜん(全然)」については、すでにさまざまな研究や議論が行われている。以下は「副詞研究におけるぜんぜん(全然)の位置づけ」と「ぜんぜん(全然)の意味用法についての指摘」に分けて述べる。

1.1 副詞研究における「ぜんぜん(全然)」の位置づけ

1.1.1 陳述副詞としての「ぜんぜん(全然)」

鈴木(1972)は陳述副詞を以下のように定義している。

「陳述副詞は一般の副詞と違って、動詞、形容詞などの意味を一層詳しく説明するものではない。陳述副詞は、素材的な意味(名付けの、指示的な意味)を持たず、もっぱら陳述的な意味だけを持っていて、文にあらわされる話し手のきもち(陳述的な意味)を補足、強調する単語であって、文の中で独立語としてはたらくものである。」

鈴木(1972 : 476)

さらに、鈴木は以下のような指摘がある。

「陳述副詞は、述語の陳述的な意味を補足、強調するのであるから、述語の陳述的な意味をあらわす一定の形式と呼応する」

鈴木(1972 : 477)

鈴木によると、「ぜんぜん(全然)」は「陳述副詞」の類に属し、「まったく」と同じ、文にあらわされた内容に対する話し手の「全面否定」という態度をあらわし、程度をあらわす副詞に近い。

しかし、全面否定の用法以外にも、序章で取り上げた例のように、肯定形

式と共起する場合もあるだろう。(以下は序章における(4)～(10)の例を再掲する)

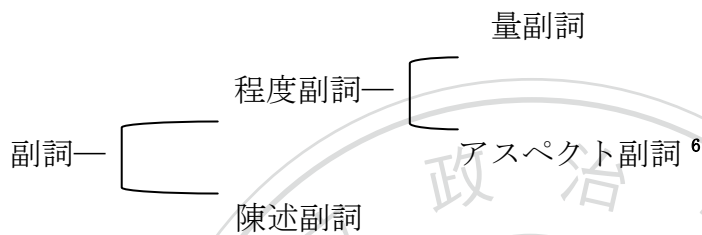
- (1) K-1 戦士の方が全然凄いですよね。 (Yahoo!知恵袋)
- (2) 免許区分と車両区分はぜんぜん別物。 (Yahoo!知恵袋)
- (3) 男女間の友情は、成立出来る人からしたら、ぜんぜん普通のことで、逆に成立しない人からしたら絶対にできない行為だと思います。 (Yahoo!知恵袋)
- (4) 明日は抜歯の予定なので主治医に確認したところ全然OKでした。 (Yahoo!ブログ)
- (5) さすがに本格的に降ってくると地面に水たまりができちゃうのだが、多少の雨なら全然平気。 (『CAR BOY』)
- (6) 「改革」という言葉と「開放」という言葉は全然違いますね。 (『北朝鮮問題をどう解くか』)
- (7) 前の旦那は三歳上でした。全然ダメな人、子どもでした。 (Yahoo!知恵袋)

このように、否定形式と共起しない「ぜんぜん(全然)」は、鈴木が指摘した文法的な否定形式「ない」と呼応し、「陳述副詞」として「文にあらわされた内容に対する話し手の全面否定という態度をあらわす」というものではない。そのような否定形式と呼応しない「ぜんぜん(全然)」も、「陳述副詞」として位置づけをしいのかについて、鈴木(1972)は言及していない。したがって、本稿はそのような否定形式と呼応しなく、逆に肯定形式と共起す

る「ぜんぜん(全然)」の副詞の位置づけについて、さらに詳しく考察したい。

1.1.2 程度副詞としての「ぜんぜん(全然)」

近藤(1997)は、副詞の分類と名称について、まずは程度副詞と陳述副詞とに大別し、次に程度副詞をさらに量副詞とアスペクト副詞とを細分している。よって、近藤の分類は以下のように示すことができる。



近藤によると、程度副詞は、状態について、その程度を示すのであるが、「ぜんぜん(全然)」のような場合は、程度を否定という形で示すことに特徴がある。たとえば、以下のような例が示されている。

(8) 地獄があるのだろうか。死ぬのは全然怖くない。そのわけは安楽死だ (以下略)

近藤(1997 : 90)

このように、例(8)は程度のはなはだしさを強調することになり、否定を強めることになる。

そして、近藤は、同じ程度副詞も動詞にかかる場合には、その動作によって引き起こされる変化の量についての修飾を行うので、その下位の分類として量副詞と呼ぶと述べている。この場合の「ぜんぜん(全然)」は、以下のような例が示されている。

⁶アスペクト副詞：近藤(1997)によると、量というより頻度や完了の程度などを示すものがアスペクト副詞に属する。

- (9) 代表者の人選については「まだ全然話し合っていない」として、旧
(以下略)

近藤(1997:91)

例(9)は動詞の動作によって引き起こされる変化の量について修飾を行うものである。

このように、近藤は、上述 1.1.1 節の鈴木とは違い、副詞「ぜんぜん(全然)」を、程度副詞という分類に位置づけていると言えよう。

また、否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」の用例については、たとえば、以下のような例が示されている。

- (10) ただ、自分なんて全然だめと口では言っても、心の (以下略)

- (11) 趙治勳新王座の話。私のほうが全然悪い碁と思っていたが、右上隅
(以下略)

近藤(1997:94)

例(10)(11)のように、否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」は、「語彙としてなんらかの否定の意味を含む」というものを要求すると述べられている。

それから、以下のような否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」の用例も指摘されている。

- (12) 打ち上げのあるときは、町の活気が全然違うと南種子町商工会の吉
田 (以下略)

- (13) 減税と賃上げは全然別の発想だ。減税は国全体の景 (以下略)

近藤(1997:94)

例 (12) (13) のように、否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」は、「異なる」という意味を含むものとも共起すると述べられている。

しかし、以下示したように、「ぜんぜん(全然)」はこの二種類以外の表現とも共起できる。(1.1.1 節における(1) (3) (4) の例再掲)

(14) K-1 戦士の方が全然凄いですよね。 (Yahoo!知恵袋)

(15) 男女間の友情は、成立出来る人からしたら、ぜんぜん普通のにとで、
逆に成立しない人からしたら絶対にできない行為だと思います。
(Yahoo!知恵袋)

(16) 明日は抜歯の予定なので主治医に確認したところ全然OKでした。
(Yahoo!ブログ)

例(14)～(16)のように、否定と呼応しない「ぜんぜん(全然)」は、「凄い」「普通」「OK」とも共起する。それらの表現は、「語彙としてなんらかの否定の意味」も含んでおらず、「異なる」という意味も含んでいない。したがって、近藤の指摘のほかにも、肯定形式で「ぜんぜん(全然)」と共起できる表現がある。それはどのような語であるかは、さらに詳しく考察する必要があると思われる。

1.1.3 量程度の副詞としての「ぜんぜん(全然)」

仁田(2002)によると、「程度副詞」は属性(質)や状態を表わす成分に係わってその程度性を修飾・限定するというものである。それに、仁田は、程度副詞を「純粹程度の副詞」、「量程度の副詞」、「量の副詞」という三種類に分けている。「ぜんぜん(全然)」は、「酒を全然飲まなかった」「全然歩かなかった」という純粹程度の副詞と量程度の副詞とを識別するテスト・フレー

ム⁷に適合するように、属性・状態の程度限定を行う構文にも、数量の限定を行う構文の中にも現れうるとしている。したがって、「ぜんぜん(全然)」は、「量程度の副詞」に属すと仁田は主張している。

しかし、仁田による「ぜんぜんは量程度の副詞に属す」という指摘は、やはり否定形式と呼応する「ぜんぜん(全然)」の場合に限られ、現在ではよく見られる否定と呼応しない、肯定形式とも共起する「ぜんぜん(全然)」の場合の副詞の位置づけに対しては、言及していない。

それから、仁田によると、「ぜんぜん(全然)」は、属性・状態に対する程度限定としての用法も持っているものの、中心的な用法は、事態の実現・成立の可能性という程度の全面否定をあらわすことにあると述べられている。が、やはり、それも否定形式と呼応する場合に限られ、肯定形式に使う「ぜんぜん(全然)」の意味用法については言及していない。

このように、1.1.1節～1.1.3節で見たように、副詞における「ぜんぜん(全然)」の位置づけは、学者によってそれぞれである。しかし、従来の研究は、否定形式と呼応する「ぜんぜん(全然)」を考察するものが多い。それに対して、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合は、副詞の用法全体においてどう位置付けたらいいのかについて述べられていない。本稿は、肯定形式と共起する副詞「ぜんぜん(全然)」の意味用法を明らかにした上で、その位置づけについても明らかにする。

1.2 「ぜんぜん(全然)」の意味用法についての研究

1.2.1 辞書における記述

辞書においては、「ぜんぜん(全然)」は以下のように定義されている。

- (1) 北原保雄・大修館 編(2002-2009) 『明鏡国語辞典⁸』 大修館書店

【副】(1) <<下に否定的な表現を伴って>>全面的な否定を表す。ちっとも。まるで。

全く。「意味が一分からない」「—いいところがない」「そんな心配は

⁷ 純粹程度の副詞と量程度の副詞とを識別するテスト・フレーム：仁田(2002)が提出した「お酒を[X]飲んだ」／「[X]歩いた」という構文である。詳しくは仁田(2002:163)参照。

⁸ 電子辞書に収録されている辞典。収録数：約70,000語。

一不要だ」「一だめだ」

(2)〔俗〕程度の差が明らかであるさま。断然。「こっちの方が一大きい」

「私よりも一若く見える」

(3)〔俗〕(否定的な状況や懸念をくつがえす気持ちで)全く問題なく。「一平気だよ」

(2) 新村出 編(1991)『広辞苑』第四版 岩波書店

一【名】全くその通りであるさま。すべてにわたるさま。「一たる狂人」

二【副】①すべての点で。すっかり。「一君にまかせる」

②(下に打消の言い方や否定的意味の語を伴って)全く。まるで。「一わからない」「一駄目だ」

③(俗な用法として、肯定的にも使う)全く。非常に。「一同感です」

(3) 松村明 編(1995)『大辞林』第二版 三省堂

【副】(1)(打ち消し、または「だめ」のような否定的な語を下に伴って)一つ残らず。あらゆる点で。まるきり。全く。「雪は一残っていない」「金は一ない」「一だめだ」

(2)あますところなく。ことごとく。全く。「一体生徒が一悪るいです/坊っちゃん(漱石)」「母は一同意して/何処へ(白鳥)」

(3)〔話し言葉での俗な言い方〕非常に。とても。「一いい」(ト/タル)[文]形動タリ すべてにわたってそうであるさま。「実は一たる改革を宣告せり/求安録(鑑三)」

(4) 松村明 監修、小学館『大辞泉』編集部 編(1998)『デジタル大辞泉⁹』 小学館

一【ト・タル】文【形動タリ】余すところのないさま。まったくそうであるさま。

「一たるスパルタ国の属邦にあらざと雖も」<⇒竜溪・⇒経国美談>

⁹ 『デジタル大辞泉』は、書籍版『大辞泉(増補・新装版)』に基づいて新語・カタカナ語の増補、内容の改訂を加え編集したものです。収録数：約236,000項目/カラー写真：約2,100点

- 二【副】 ①（あとに打消しの語や否定的な表現を伴って）まるで。少しも。「—
食欲がない」「その話は—知らない」「スポーツは—だめです」
- ②残りなく。すっかり。「結婚の問題は—僕に任せるといふ愛子の言葉
を」<⇒志賀・⇒暗夜行路>
- ③（俗な言い方）非常に。とても。「—愉快だ」

このように、辞書における「ぜんぜん(全然)」は主に「あとに打消しの語
や否定的な表現を伴う」と「（俗な言い方）非常に。とても。」と解釈され
ている。

1.2.2 森田(1977)

森田(1977)は、「ぜんぜん(全然)」を「さっぱり」、「まったく」という副
詞の関連語として取り上げている。森田によると、「ぜんぜん(全然)」は「否
定に呼応する副詞である。広く否定表現にかかわり、打ち消す気持ちを強調
する。否定を客観的に強め、その動作や状態がほんのわずかも成立しない、
不十分、不完全ではなく、ゼロの状態を言う」と説明している。森田は、次
のような例文を取り上げて、比較を行っている。

「ドアは全然しまらない」VS「ドアは完全にしまらない」

「ドアは全然しまらない」は、開いたまま微動もしない、もしくは、一ミ
リもしめることができない状態である。一方、「ドアは完全にしまらない」
は、隙間が少しある「不完全」、「不十分」な状態を言う。この比較で、「ぜ
んぜん(全然)」は「その動作や状態がほんのわずかも成立しない、不十分、
不完全ではなく、ゼロの状態を言う」という意味を表すことが分かる。しか
し、これは、否定形式を呼応する「ぜんぜん(全然)」の意味用法に限られて
いる。現在、よく見られる肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の意味用
法については言及されていない。ゆえに、本稿はより多くの用例を集め、肯
定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の意味用法についてより体系的に分析

したいと思う。

1.2.3 茅野他(1993)

茅野他(1993)は、「ぜんぜん(全然)」を「決まった言い方を伴う副詞」という分類に属するとしている。また「ぜんぜん(全然)」について、「まったく～ない」という意味を表す。が、否定の形だけでなく、否定の表現、例えば「全然だめだ」のような言い方もあると説明している。さらに、例(17)のように、「最近では、ただ『非常に』『とても』の意味で使われる場合もある」とも指摘している。

(17) 新しいあの歌手のレコードは全然すてきですね。

茅野他(1993:142)

しかし、茅野他の「最近では、ただ『非常に』『とても』の意味で使われる場合もある」という指摘が、果たしてそういう一言で総括し説明できるのだろうか。したがって、本稿は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法についてさらに考察し、その意味用法が「とても」・「非常に」とどう違うかについて述べてみる。

1.2.4 工藤(1999)

工藤(1999)は、否定と呼応する32個の副詞を以下のように分類している。

A類 (A1) けっして、べつに

(A2) かならずしも、あながち、まんざら

(A3) まさか、よもや

B類 (B1) とても、とうてい

(B2) どうにも、なかなか、いっこうに

(B3) ついぞ、二度と/めったに、ろくに

- C類 (C1) さっぱり、まるで、ぜんぜん/夢にも、露ほども、もうとう
(C2) 少しも、ちっとも、いささかも、みじんも、これっぽっちも
(C3) たいして、さして、さほど、それほど、あまり

工藤によると、A類の副詞のグループは、名詞述語であっても形容詞述語であっても、さらに動詞述語であってもよく、述語のタイプに限定がないものである。そして、B類の副詞のグループは、動詞述語に限定されていて、典型的な形容詞述語や名詞述語とは共起しないものである。その中の(B3)の四つの副詞は、「頻度」あるいは「実現の量的側面」に関わる点で、C類に含めてもよいかもしれないと述べている。また、C類の副詞のグループは、形容詞述語、動詞述語とは共起するが、名詞述語とは基本的に共起し得ないものである。

「ぜんぜん(全然)」は、工藤によると、同じ(C1)に属す「さっぱり、まるで」と比べると、形容詞述語と共起する場合が多くなる点で、(C2)に近い副詞である。そして、動詞述語と共起する場合、以下の用例のように三つに分けられる。

<程度>

- ・ 分からない、全然分からない。
- ・ 僕全然、英語できないんだ。

<量>

- ・ 昨夜は全然眠っていない。
- ・ アルコール分は全然なかった。

<頻度>

- ・ 酒は全然やらない。
- ・ 未紀って全然映画見ないのね。

以上のように、工藤は否定形式と呼応する「ぜんぜん(全然)」の場合につい

て、副詞のグループや動詞述語と共起する場合などを述べているが、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合については言及していない。ゆえに、本稿は肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合に着目し、その副詞における位置づけについて明らかにしたいと思う。

それから、「ぜんぜん(全然)」は、「語彙的に否定的意味を持った肯定形式¹⁰⁾」(たとえば、「無学だ(没交渉だ、未知の人だ)」、「駄目だ」、「違う(異なる、誤謬だ)」、「別だ(別人だ、赤の他人だ)」、「からっぽだ」、「素人だ」など)と共起しうるとも指摘している。しかし、工藤はそれ以上のことを指摘していない。1.1.2節で述べたように、「ぜんぜん(全然)」は「凄い」、「普通」、「OK」などのような「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」を含んでいない語も共起できる。したがって、工藤の指摘のほかにも、肯定形式で「ぜんぜん(全然)」と共起できる語がある。それはどのような語であるかは、さらに詳しく考究する必要があると思われる。

1.2.5 服部(2007)

服部(2007)は、複数の、質の異なる大規模コーパス(「朝日新聞記事データベース(「新聞」)1991-1998年版」+「Yahoo!知恵袋」)を利用して、「ぜんぜん(全然)」の使用における共起傾向を表1のように示している。しかし、服部は、その調査の結果を述語ごとに分類するにとどめている。それ以上の分析は見当たらない。また、服部は、なぜ「ぜんぜん(全然)」と共起する表現は、表1のような傾向を持っているのかについて、一切述べていない。

[表1] ¹¹⁾服部(2007)の「ぜんぜん(全然)」の共起傾向

¹⁰⁾ 「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」：工藤(1999)で取り上げた例によると、<マイナス評価>という否定的意味を持つ語も「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」に入ると思われる。

¹¹⁾ [表1]：服部によると、「否定形式」は「～ナイ/ズ/ナシ/マイ/ン」のようなものである。

「相違類」は「違う、異なる、変わる、異にする」である。「別」は「別だ/の、別人、別物」などを含んでいる。「その他」については、すべての例を示していない。

	新聞		知恵袋	
否定形式	2122	71.0%	1769	63.7%
相違類	666	22.3%	464	16.7%
だめ	126	4.2%	39	1.4%
別	23	0.8%	18	0.6%
平気	12	0.4%	42	1.5%
大丈夫	6	0.2%	76	2.7%
OK	1	0.0%	111	4.0%
良い	5	0.2%	67	2.4%
普通	1	0.0%	23	0.8%
いける		0.0%	10	0.4%
余裕		0.0%	5	0.2%
まし		0.0%	16	0.6%
その他	27	0.9%	137	4.9%
合計	2989	100%	2777	100%

表1によると、「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い表現は、「否定形式」と「相違類」を除けば、動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞など、さまざまな品詞にわたる。一見ばらばらのようであるが、共通的に何らかの特徴があるはずである。したがって、本稿は、「ぜんぜん(全然)」が持つ副詞の機能を通して、

ただ共起する語の傾向を提示するだけではなく、なぜそういう傾向があるのかも明らかにする。

また、表1によると「平気、大丈夫、OK、良い、いける、余裕」などの語は、「語彙的に否定的意味を持った」語、あるいは「語彙としてなんらかの否定の意味を含む」語のどちらでもない。それらの語はほとんどがプラス評価を表わす表現なので、評価性の観点からも考察する必要があると思われる。

さらに、服部は、副詞「ぜんぜん(全然)」が「明示的比較形式(「～より、～比べて」、「～よりも、～に比べると」など)」を伴う例の比率を、表2のように示している。(太字は筆者によるものである。頻度が高いものを示す。)表2を見ると、否定形式でない方が否定形式より、「明示的比較形式」を伴う例の比率が高いということが分かる。しかし、同じく、服部はこれ以上の分析は行っていない。

[表2] 服部(2007)の「ぜんぜん(全然)」が「明示的比較形式」を伴う比率

	新聞			知恵袋		
	全数	比較形式付	比率	全数	比較形式付	比率
否定形式	2122	6	0.3%	1769	4	0.2%
相違類	666	3	0.5%	464	5	1.1%
だめ	126		0.0%	39		0.0%
別	23		0.0%	18		0.0%
平気	12		0.0%	42		0.0%
大丈夫	6		0.0%	76		0.0%
OK	1		0.0%	111	2	1.6%
良い	5	2	40.0%	67	25	37.3%

普通	1		0.0%	23		0.0%
いける				10	1	10.0%
余裕				5		0.0%
まし				16	16	100%
その他	27	7	25.9%	137	38	27.7%
合計	2989	18	0.6%	2777	91	3.3%

表2によると、「ぜんぜん(全然)」が「良い」「まし」などの肯定表現と共起する場合は、「明示的比較形式」を伴う例の比率が極めて高い。しかし、「ぜんぜん(全然)」がほかの「普通」「余裕」などの肯定表現と共起する場合は、そういう傾向が見当たらない。したがって、「ぜんぜん(全然)」が肯定表現と共起する場合は、必ず「明示的比較形式」を伴うとは限らない。よって、「明示的比較形式」以外に、どのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいのかについて、さらに明らかにする必要があると思われる。また、そのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」とともに現れやすい理由についても明らかにしたいと思う。

以上のように、「ぜんぜん(全然)」の先行研究を、「副詞における位置づけ」と「意味用法」に分け、概観した。従来の先行研究において、まだいくつかの問題点が残っているということがわかった。次の1.3節では、それらの問題点をまとめる。

1.3 問題点

前節で述べたように、従来の先行研究において、まだいくつかの問題点が残っている。それらの問題点は、主に以下のようにまとめられる。

問題点①：肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の副詞における

位置づけである。

従来の研究（鈴木、近藤、仁田など）は、「ぜんぜん(全然)」の副詞における位置づけについて、否定形式と呼応する場合を考察するものが多い。肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合については、詳しく述べられていない。したがって、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の「副詞における位置づけ」について、さらに検討する余地がある。

問題点②：先行研究の指摘のほかに、どのような肯定表現が「ぜんぜん(全然)」と共起するか。

「違う」「だめ」以外に、「凄い」「普通」「OK」など、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現が存在する。先行研究の指摘のほかに、どのような肯定表現が「ぜんぜん(全然)」と共起するかについて、考察する必要がある。

問題点③：「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現はどのような特徴があるか。

問題点②に引き継ぎ、先行研究の指摘以外に、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現は、どのような特徴があるかについて、さらに考察する必要がある。

問題点④：「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」はどのような意味用法を持つのか。

肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の意味用法については、あまり述べられていない。1.2.1節で述べたように、辞書には「ぜんぜん(全然)」を「(俗な言い方)非常に。とても。」という用法の解説がある。また、茅野他は、「ぜんぜん(全然)」は肯定表現と共起する場合、「とても」「非常に」と意味用法が重なっていると指摘している。したがって、肯定表現と共起す

る「ぜんぜん(全然)」の意味用法をさらに明らかにし、「とても」・「非常に」とどう違うかを述べる必要がある。

問題点⑤：どのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいのか。なぜか。

服部によると、「ぜんぜん(全然)」が「良い」「まし」などの肯定表現と共起する場合は、「明示的比較形式」を伴う例の比率が極めて高い。しかし、「ぜんぜん(全然)」がほかの肯定表現と共起する場合は、そういう傾向が見当たらない。「明示的比較形式」以外に、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」とともに現れやすい言語形式がある。それはどのような言語形式なのかを、考察する必要がある。また、そのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について、考察する必要がある。

以上のように、従来の先行研究において、まだ解決されていないいくつかの問題点をまとめた。これからは、それぞれの問題点をひとつずつ明らかにしたいと思う。

第2章

「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現

2.1 はじめに

第2章において、まず2.2節では、従来の先行研究を踏まえて、その問題点を提示する。次に2.3節では、現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の分布状況を調べる。またその調査の結果に基づいて、2.2節で提示したいくつかの問題点をそれぞれ2.3節と2.4節で説明し、理由を探究してみる。最後2.5節で第2章の内容をまとめる。

2.2 先行研究と問題点

1.3節で言及したように、「ぜんぜん(全然)」は工藤の「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」と、近藤の「語彙としてなんらかの否定の意味を含む語・「異なる」という意味を含む語と共起できる。が、(1)～(3)が示すように、それらの語以外に、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現(「凄い」「普通」「OK」など、以下のように用例を再掲する)も存在する。したがって、先行研究の指摘のほかにどのような肯定表現が「ぜんぜん(全然)」と共起するか、そして、それらの肯定表現は、どのような特徴があるのかについて考察する必要がある。

- (1) K-1 戦士の方が全然凄いですよね。 (Yahoo!知恵袋)
- (2) 男女間の友情は、成立出来る人からしたら、ぜんぜん普通のことで、逆に成立しない人からしたら絶対にできない行為だと思います。 (Yahoo!知恵袋)
- (3) 明日は抜歯の予定なので主治医に確認したところ全然OKでした。 (Yahoo!ブログ)

また、従来の研究（鈴木、近藤、仁田など）は、「ぜんぜん(全然)」の副詞における位置づけについて、否定形式と呼応する場合を考察するものが多い。肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合については、まだ詳しく述べられていない。服部(2007)は、表1のように「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い語を分類し傾向をまとめたが、そのような傾向は、いったいどのようなことを反映しているのかについて述べていない。表1のような共起傾向は、「ぜんぜん(全然)」が持っている副詞の機能と関連していると思われる。本稿は「ぜんぜん(全然)」の共起傾向を通して、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の「副詞における位置づけ」について考える。

[表1] 服部(2007)の「ぜんぜん(全然)」の共起傾向

	新聞		知恵袋	
否定形式	2122	71.0%	1769	63.7%
相違類	666	22.3%	464	16.7%
だめ	126	4.2%	39	1.4%
別	23	0.8%	18	0.6%
平気	12	0.4%	42	1.5%
大丈夫	6	0.2%	76	2.7%
OK	1	0.0%	111	4.0%
良い	5	0.2%	67	2.4%
普通	1	0.0%	23	0.8%
いける		0.0%	10	0.4%

余裕		0.0%	5	0.2%
まし		0.0%	16	0.6%
その他	27	0.9%	137	4.9%
合計	2989	100%	2777	100%

2.3 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現

この節では、まず、現代日本語書き言葉均衡コーパスにおける「ぜんぜん(全然)」の用例を収集する。そして、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を取り上げ、それぞれの用例数とともに示す。さらに、前節で言及した工藤(1999)と近藤(1997)による先行研究を踏まえながら、肯定形式で「ぜんぜん(全然)」と共起する語をグループ分けしてみる。

2.3.1 現代日本語書き言葉均衡コーパスによる実態調査

副詞「ぜんぜん(全然)」が用いられた例を現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して収集した。その結果、「ぜんぜん(全然)」の使用例は5872例であり、そのうち、「ぜんぜん(全然)」が肯定形式と共起する用例は1591例もあった。つまり、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の例はすべての「ぜんぜん(全然)」の用例の四分の一以上も占めている。「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、表3¹²のように示す。なお、共起する肯定表現が多様であるため、表3は頻度の高い表現のみ示す。

[表3] 「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い表現

1.	違う	853例
2.	だめ	109例

¹²表3は10例以上の表現のみ示す。ほかの「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現は、付録にご参照。

3.	別	67 例
4.	OK	64 例
5.	平気	63 例
6.	いい	56 例
7.	大丈夫	51 例
8.	無〇/無〇〇 ¹³	27 例
9.	変わる	21 例
10.	別〇/別〇〇 ¹⁴	20 例
11.	普通	16 例
12.	まし	10 例

表3のように、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、用例数とともに示した。次の2.3.2節では、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、工藤(1999)と近藤(1997)による指摘を踏みながら、グループ分けにしてみる。

2.3.2 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現のグループ分け

近藤(1997)は、「ぜんぜん(全然)」は、「語彙としてなんらかの否定の意味を含む」語とも、「異なる」という意味を含む語とも肯定形式で共起すると指摘している。また、工藤(1999)も、「ぜんぜん(全然)」は、「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」(たとえば、「無学だ(没交渉だ、未知の人だ)」、「駄目だ」、

¹³無〇/無〇〇：無視5例、無名2例、無償1例、無能1例、無用1例、無理1例。
無関係5例、無関心3例、無意味3例、無感覚1例、無宗教1例、無頓着1例、無防備1例、無反応1例。

¹⁴別〇/別〇〇：別物7例、別人3例、別個3例、別種2例、別途1例。
別次元2例、別平面1例、別種類1例。

「違う（異なる、誤謬だ）」、「別だ（別人だ、赤の他人だ）」、「からっぽだ」、「素人だ」など）と共起しうると述べている。したがって、以下では、前節で集めた「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、近藤(1997)と工藤(1999)の分類を参考に、グループ分けしてみる。

まず、近藤(1997)とも工藤(1999)とも言及された「語彙としてなんらかの否定の意味を含む」語や「語彙的に否定的意味を持った肯定形式」を「マイナス評価を持つ語」に分類する。評価性について、先行研究にはさまざまな定義があるが、本稿は以下のように村木(2012)の説明に従う。

「形容詞に所属する単語の中には、その語彙の意味として評価性がやどっているものがある。「よい」「おいしい」「すてきな」におけるプラスの評価、「みじめな」「下品な」「旧態依然とした」におけるマイナスの評価などである。「近い」「新しい」「急な」「ぴかぴかの」といった事物の客観的な特徴を意味するとおもわれる単語も、それが文の中で用いられるとき、しばしば言語主体の判断や評価のニュアンスが出てくる。形容詞文における評価的な側面は、言語主体が、どのようなものに関心をよせているか、なにを必要としているか、どのようなものに価値を認めているのかといった、興味・目的・欲求にかかわり、そうしたものが事態への関係のあり方の反映としてあらわれる。」

このように、一つの単語がマイナス評価を持つかどうかを言葉自体の意味だけではなく、文脈で使われる意味で判断する。たとえば、「終わる」という単語は「試験が終わった」、「恋が終わった」のように、文脈によって「プラス評価」と「マイナス評価」を両方とも表せるが、本稿で収集した例(4)で使われる意味により「ぜんぜん(全然)」の文で使われる場合「マイナス評価」を表すことが分かる。

- (4) その後メールのやり取りの中で発展する場合もあれば、終わる場合もあると思う、相性でビビビッって一気に進む場合もあるし、ぜんぜん終わってしまう場合もあるでしょう。(Yahoo!知恵袋)

このように、「終わる」という単語を「マイナス評価を持つ語」に分類することにする。本稿の「マイナス評価を持つ語」は主に以下の①～④のタイプが含まれる。

①明示的な語彙的否定形式を持つ語：

たとえば、無〇/無〇〇・不〇/不〇〇・非〇〇・没〇〇など。

②語彙的意味としてマイナス評価がやどっている語：

たとえば、素人・下手・ひどいなど。

③実現が困難であることを表わす語：

たとえば、～がたい・～かねるなど。

④欠如・消滅を表わす語：

たとえば、欠如する・欠乏する・忘却する・忘れる・空く・失うなど。

次に、近藤(1997)で指摘した「異なる」という意味を含む語を、ここでは便宜に「異なる類」と呼ぶことにする。また、「マイナス評価を持つ語」と「異なる類」のどちらにも属さないものを「その他」に分類する。以下のように、2.3.1節の表3による「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、表4のように、まず「マイナス評価を持つ語」、「異なる類」、「その他」という三つのグループに大別した。

[表4] 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現のグループ分け

	無〇/無〇〇、不〇/不〇〇、非〇〇、没〇〇、 だめ、逆、反対、正反対、少ない、素人、下手、 つまらない、遅い、重い、ゆるい、ひどい、疎い、 いやらしい、嫌、アウト・オブ・眼中、低い、 スパルタ、チンプンカンプン、でたらめ、 ばらばら、まだまだ、ミスマッチ、ノーマーク、
--	---

マイナス評価を持つ語	めちやくちや、虚偽、嘘、がたがた、悪い、 かっこ悪い、見当違い、見当はずれ、空く、失う、 ～がたい、～かねる、問題外、急、ゼロ、主観的、 未熟、冷淡、複雑、廃位、架空、皆無、以下、 二の次、学歴社会、垂れ流し、取り去る、 盛り下がる、終わる、黙る、怠る、離れる、 忘れる、忘却する、誤解する、相反する、 支配する、縮小する、切離する、欠如する、 欠乏する、そっぽ向く、抜く、抜ける、乱す
異なる類	違う、間違う、食い違う、 別、別〇/別〇〇、 変わる、変える、入れ代わる、 異なる、異にする、 独特、独自、おかしい ¹⁵
	OK、平気、いい、大丈夫、普通、まし、アリ、 ある、いける、安い、余裕、同じ、同〇/同〇〇、 まとも、強い、凄い、元気、綺麗、新しい、 一致する、楽、おいしい、早い、静か、かわいい、

¹⁵ 「独特・独自・おかしい」はほかの事物が持つ性質と区別する特徴を持つと言えるため、ここでは「異なる類」に分類した。たとえば、以下の用例がある。

「独特」と共起する例文：東南アジアで好まれてゐる米は、例の細長いパサパサした外米である。日本の米の飯の粘着度と、独特の照りと、それに対する愛着とは、全然日本独特のものである。（『三島由紀夫全集』）
（日本以外の国と異なっている）

「独自」と共起する例文：日本はアメリカから与えられたばかばかしいフォーミュラで、今三軍を編成しているけれど、これを全然独自の日本的なものに改め……。（『No』と言える日本）
（アメリカのと異なるものに改める）

「おかしい」と共起する例文：ビックリマークの次はダブルクォーテーションなのにアットマークが出てきます。以降も全然おかしいです。
（Yahoo!知恵袋） （もとの順序と違っている）

その他	かわいらしい、かっこいい、慣れる、～やすい、 ～たい、～直す、一般的、優しい、楽しい、甘い、 暖かい、若い、高い、でかい、うまい、 ちっちゃい、派手、おしゃれ、びっくり、 けっこう、好印象、平和、幸せ、充分、可能、 公的、快適、初耳、赤ちゃん、当たり前、 すっきりする、ありえる、心得る、響く、行く、 言う、言える、いる、なる、従う、足りる、する、 できる、楽しめる、着られる、断れる、走れる、 使える、見(ら)れる、見える、長持ちする、 理解する、実現する、信用できる、間に合う、 似る
-----	---

表4に示したように、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現は、「マイナス評価を持つ語」と「異なる類」のほかに、「その他」の語も多く、多様であると言えよう。そして、「その他」の部分を見ると、近藤(1997)が指摘した「異なる類」とは逆に、「同じ」、「同〇/同〇〇」、「一致する」などのような「同じ」という意味を含む語が肯定形式で「ぜんぜん」と共起するということがわかる。したがって、表4の「その他」の中に配属されている語について、より詳しく考察する必要があると思われる。

次に、「マイナス評価を持つ語」、「異なる類」と「その他」という三つのグループは、それぞれどのぐらいの用例数があるか、そして、肯定形式で「ぜんぜん(全然)」と共起する1591例の中に、それぞれどのぐらいの比率を占めているのかを、表5にまとめた。

[表5] 「ぜんぜん(全然)」と共起する用例数と比率

	用例数	比率

マイナス評価 を持つ語	231	14.4%
異なる類	975	61.3%
その他	385	24.3%
総計	1591	100%

表5を見ると、「その他」の用例は、1591例の中に385例も存在し、全体のおおよそ四分の一も占めていることがわかる。このような近藤(1997)と工藤(1999)の両方とも指摘されていない「その他」に属する語は、数量が多く、さらに考察する必要があると思われる。

以上で述べたように、2.3節では、現代日本語書き言葉均衡コーパスから「ぜんぜん(全然)」の使用例を5872例抽出し、そして、5872例のうち、1591例もある「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を取り上げ、使用回数が高いものを表3にまとめた。また、工藤と近藤による指摘を踏まえながら、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、表4のように、「マイナス評価を持つ語」、「異なる類」、「その他」という三つのグループに分けた。さらに、その三つのグループは、どのぐらいの用例数があるか、どのぐらいの比率を占めているかを、表5にまとめた。

次の2.4節では、まず、表4の「その他」による語を品詞で分類する。そして、それぞれの品詞グループには、どのような特徴が見られるかを考察してみる。また、2.2節で述べたように、服部(2007)は「ぜんぜん(全然)」と共起す

る頻度の高い語を分類し、その共起傾向を表1のようにまとめたが、そのような傾向は、いったいどのようなことを反映しているのかについて述べていない。また、使った資料は新聞と知恵袋のみで、コーパスの種類が限られている。本稿は、現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して集めた資料に基づき、「ぜんぜん(全然)」と共起する使用回数の高い表現を示す。さらに、その共起傾向を通して、副詞における「ぜんぜん(全然)」の位置づけについても述べてみる。

2.4 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴及び傾向

「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴は主として「程度性を持つ語が多い」ということである。本稿はその語の「程度性の有無」を「程度副詞(相当、かなり、ずいぶんなど)」と共起するかどうかということによって判断する。たとえば、「足りる」という単語は、「相当/足りる」「かなり/足りる」「ずいぶん/足りる」などのように、程度を修飾する副詞と共起する。よって、「足りる」という単語を「程度性を持つ語」と扱うことにする。

2.4.1 表4における「その他」の品詞分け

この節では、まず、2.3.2節の表4の「その他」に分類された語をさらに品詞で分類する。品詞は、語彙と文法の特徴による単語の分類である。文法上の共通の特徴を持った単語のグループのことを品詞というが、本稿では、表4の「その他」に分類された語を「ぜんぜん(全然)」と共起する場合の品詞的特徴によって分類する。たとえば、「アリ(あり)」のような、動詞の連用形からなった単語を品詞で分類する時には、用例の中でどのような品詞として機能が働いているのかによって分類する。以下示した例のように、「アリ(あり)」はそれぞれの用例の中で、「名詞」として機能が働いている。したがって、「アリ(あり)」は「名詞」のグループに分ける。

◎ 「アリ」:

(5) 2人きりの時は全然アリだと思います。

(Yahoo!知恵袋)

(6) うどん・そばならパスタなんかより全然有りでしょう！ (Yahoo!知恵袋)

(7) 見るまではキャストが納得いかなかったけど、全然ありですね。

(Yahoo!知恵袋)

以下、便宜のため、表4の「その他」に分類された語を再掲し、「ぜんぜん(全然)」と共起する場合の品詞的特徴によって分類したものを表6にまとめる。

[表4] 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現のグループ分け

(その他の部分のみ再掲)

その他	OK、平気、いい、大丈夫、普通、まし、アリ、ある、いける、安い、余裕、同じ、同〇/同〇〇、まとも、強い、凄い、元気、綺麗、新しい、新しき人、一致する、楽、おいしい、早い、静か、かわいい、かわいらしい、かっこいい、慣れる、～やすい、～たい、～直す、一般的、優しい、楽しい、甘い、暖かい、若い、高い、でかい、うまい、ちっちゃい、派手、おしゃれ、びっくり、けっこう、好印象、平和、幸せ、充分、可能、公的、快適、初耳、赤ちゃん、当たり前、すっきりする、ありえる、心得る、響く、行く、言う、言える、いる、なる、従う、足りる、する、できる、楽しめる、着られる、断れる、走れる、使える、見(ら)れる、見える、長持ちする、理解する、実現する、信用できる、間に合う、似る
-----	--

[表6] 「その他」の品詞わけ

動詞	<p>ある、いる、似る、なる、する、従う、足りる、響く、行く、いける、慣れる、ありえる、心得る、言う、言える、できる、楽しめる、断れる、着られる、走れる、使える、見（ら）れる、見える、間に合う、信用できる</p> <p>～直す（見直す、やり直す）</p> <p>～する（一致する、すっきりする、びっくりする、理解する、長持ちする、実現する）</p>
形容詞	<p>第一形容詞（イ形容詞）： いい、安い、強い、凄い、新しい、おいしい、早い、かわいい、かわいらしい、カッコいい、優しい、楽しい、甘い、暖かい、若い、高い、でかい、うまい、ちっちゃい</p> <p>第二形容詞（ナ形容詞）： OK（オーケー）、平気、大丈夫、普通、まし、余裕、同じ、まとも、元気、綺麗、静か、平和、一般的、派手、初耳、楽、おしゃれ、けっこう、幸せ、充分、可能、公的、快適、当たり前</p> <p>第三形容詞（ノ形容詞）： 同○/同○○（同意、同一物、同意見）、 好○/好○○（好印象）</p> <p>文法的な派生形容詞： ～やすい（住みやすい、吹きやすい）、</p>

	～たい (見たい、洗いきりたい)
名詞	アリ、赤ちゃん

表6は、「ぜんぜん(全然)」と共起する場合の品詞的特徴によって分類したものである。以下では、表6の各品詞について説明する。まず、動詞について、「～直す(見直す、やり直す)」という「動詞連用形+直す」の形で用いられる複合動詞と、「～する(一致する、すっきりする、びっくりする、長持ちする、理解する、実現する)」という「名詞/副詞+する」の形で用いられる「スル動詞」とも、動詞という品詞に分ける。

次に、形容詞をさらに、「第一形容詞(イ形容詞)」、「第二形容詞(ナ形容詞)」、「第三形容詞(ノ形容詞)」と「文法的な派生形容詞」という下位種類に分ける。日本語学の研究において、「優しい」「楽しい」などのように、規定用法と述語用法の「-い」、修飾用法の「-く」というパラダイムを持っている単語を、「第一形容詞」いわゆる「イ形容詞」と扱われている。それに対して、「綺麗な」「静かな」などのように、規定用法の「-な」、修飾用法の「-に」、述語用法の「-だ」というパラダイムを持つ単語を、「第二形容詞」いわゆる「ナ形容詞」と扱われている。さらに、「第三形容詞」という用語については、村木(2012)の指摘によると、以下のようにまとめられる。

◎「第三形容詞(ノ形容詞)」:

「第三形容詞」あるいは「ノ形容詞」というのは、従来名詞あつかいされてきた「抜群」「真紅」のような単語を形容詞の一部と見なされ、第一形

容詞（イ形容詞）、第二形容詞（ナ形容詞）、第三形容詞（ノ形容詞）というように、形容詞の範囲をさらに広げるといふ見解である。第三形容詞（ノ形容詞）というタイプの形容詞は、

- ①主語・補語にならない、
 - ②連体修飾を受けない、
 - ③後続の名詞を属性規定する、
 - ④述語として用いられる、
 - ⑤後続の動詞（ときに形容詞）を修飾する修飾成分として用いられる、
- といった特徴をもっている。

①と②は、これらが名詞でないことを意味する。③④⑤は形容詞の特徴である。そして、「第三形容詞」、規定用法の「-の」、修飾用法の「-に」、述語用法の「-だ」のパラダイムを持っているが、修飾用法である「-に」と述語用法である「-だ」のいずれかが欠けていることもある。ただし、名詞の格のパラダイムである「-が」「-を」をしたがえないこと、連体修飾を受けないことを条件とされている。また、このグループに所属する単語は合成語が多いという特徴がある。本稿は村木(2012)の分類に従い、「同○/同○○（同意、同一物、同意見）」と「好○/好○○（好印象）」といった一見名詞の分野に所属すべきな単語を、「第三形容詞（ノ形容詞）」という形容詞の下位分類に分ける。

「文法的な派生形容詞」という分類について、高橋太郎(2003)は、『よみたい』『よみそうだ』『よみやすい』『よみにくい』などは動詞に接尾辞をくっつけて作られたものであり、動詞として名詞を格支配しながら、形容詞のパラダイムによって活用するので、文法的な派生形容詞である」と指摘している。したがって、「～やすい（住みやすい、吹きやすい）」と「～たい（見たい、洗いたい）」を、「文法的な派生形容詞」というグループに分類する。

最後に、表6の名詞のところに「アリ（あり）」のような、動詞の連用形からなった単語が配属されているのは、前述したようにそれらが用いられた用例から見ると、「アリ（あり）」は「名詞」として機能を働かしているからである。

以上では、「その他」の表現を品詞で分類し、そして、各品詞にどのような下位分類があるかを説明した。続いて2.4.2節では、表6の動詞・形容詞・名詞という品詞グループについて、それぞれの特徴を考察してみる。また、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現には、共通的にどのような特徴があるのかについても調べてみる。

2.4.2 「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の特徴

表6の動詞・形容詞・名詞という品詞グループには、それぞれどのような特徴があるのかについて調べた。まず、動詞のグループを見ると、以下のように、可能表現（あるいは動詞の可能形）が多いということがわかる。

◎表6の動詞グループ：

可能表現か動詞の可能形：いける、できる、言える、ありえる、楽しめる、着られる、断れる、走れる、心得る、慣れる、使える、見える、見（ら）れる、信用できる

可能表現は、益岡・田窪(1989)によると、可能の意味をあらわす接辞‘(rar)eru’が、動態動詞について状態動詞を作る。たとえば、「太郎は花子に会う。」が動作の表現であるのに対して、「太郎は花子に会える。」は状態の表現である。

また、表6の動詞グループには、「ある、いる、似る」などのような存在などの状態を表わす動詞もある。よって、表6の動詞グループの特徴は、可能動詞・状態を表わす動詞が多いと言えよう。

また、「足りる、間に合う、響く、言う、従う」などの動詞は、たとえば「相当/足りる(間に合う、響く)」「かなり/言う」「ずいぶん/従う」のように、程度を修飾する副詞と共起できる。したがって、これらの動詞は程度性を持ち、程度を表わす表現と許容すると言えよう。

さらに、「～する(一致する、すっきりする、長持ちする、理解する、実現する)」のようなスル動詞は、「どの程度・ぐらい/一致(すっきり、長持ち、理解、実現)するかと言えるように、これらの動詞も程度性を持ち、程度を

表わす表現と許容する。したがって、表6の動詞グループは程度性を持つものが多いと考えられる。このように、表6の動詞グループのもう一つの特徴は、程度を修飾する副詞と共起し、程度性を持つ表現が多いことである。

次に、形容詞グループを見る。以下に示すように、程度性を持つ語が多いということがわかる。

◎表6の形容詞グループ：

- ①程度性を持つもの：ちっちゃい、いい、安い、強い、凄い、新しい、早い、おいしい、かわいい、かわいらしい、かっこいい、高い、優しい、楽しい、甘い、暖かい、若い、でかい、うまい、OK（オーケー）、平気、大丈夫、普通、まし、余裕、同じ、まとも、元気、綺麗、静か、平和、一般的、派手、楽、おしゃれ、けっこう、幸せ、充分、可能、快適、住みやすい、吹きやすい、見たい、洗いたい¹⁶

形容詞は、事物の状態・性質をあらわし、程度性を持つものが多い。表6の形容詞グループの特徴の一つも、このように程度性を持つものが多いと考えられる。また、従来の研究で「ぜんぜん(全然)」はしばしば「程度副詞」とされている。したがって、程度を修飾する点から見ると、「ぜんぜん(全然)」と形容詞の共起は不自然ではなくなると考えられる。また、表6の形容詞グループのもう一つの特徴は、以下示したようにプラス評価を表わす語が多い（「その他」の部分のみを指す）。形容詞の評価性について、先行研究にはさまざまな定義があるが、本稿は2.3.2節で言及したように、村木（2012）の説明に従

¹⁶文法的な派生形容詞の「～やすい（住みやすい、吹きやすい）」「～たい（見たい、洗いたい）」は、「相当/住みやすい（吹きやすい、見たい）」、「少し・非常に/洗いたい」あるいは「どれほど見たい（洗いたい）か」などが言えるように、程度副詞で修飾でき、程度性を持つと思われる。

う。

②プラス評価の表現：いい、安い、強い、凄い、新しい、おいしい、早い、かわいい、かわいらしい、かっこいい、優しい、楽しい、甘い、暖かい、若い、うまい、OK、平気、大丈夫、まし、余裕、まとも、元気、綺麗、楽、静か、おしゃれ、平和、けっこう、幸せ、充分、可能、快適、当たり前、好印象、住みやすい、吹きやすい、同意、同意見¹⁷

このように、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現の中に、プラス評価を表わす語もある程度占めていることがわかる。

「ぜんぜん(全然)」と共起する形容詞の中に、「異なる類」とは逆に、「同じ」、「同意」、「同一物」、「同意見」のような「同じ」という意味を含む語がある。従来の先行研究の指摘とは違い、「同じ」を意味する表現も「ぜんぜん」と共起することがわかる。

以上述べたように、表6の形容詞グループの特徴は二つある。一つは、程度性を持つものが多いことがわかる。もう一つは、プラス評価を表わす語が多いことがわかる。次に、名詞グループの特徴について述べる。まず、以下のように、名詞の用例を取り上げてみる。

◎表6による名詞グループ：アリ、赤ちゃん

1. 「アリ」:

- (1) (問) 女性の方へ、甘えてくる彼氏はイマイチですかやっぱり男はビシッとしてなくちゃいけないのでしょうか？

¹⁷ 「同意、同意見」のような「同〇/同〇〇」の語は、「相手の意見を賛成する」のように、ある意味でプラス評価として認められると考える。

(答) 2人きりの時は全然アリだと思います。(Yahoo!知恵袋)

(2) (問) パスタに納豆ありならばうどん・そば・焼きそばにもOKですか？

(答) うどん・そばならパスタなんかより全然有りでしょう！

(Yahoo!知恵袋)

(3) (問) その人とは最近連絡を何度か取る機会があったのですが、これから先はこちらから連絡しなければ離れていくことになりそうです。行動をおこすべきでしょうか。

(答) 全然アリでしょう～ガンガンいってみちゃって下さい。あなたの気持ちが伝わるように優しくガンガンいってみよう！！

(Yahoo!知恵袋)

(4) 見るまではキャストが納得いかなかったけど、全然ありですね。

(Yahoo!知恵袋)

(5) (問) ジージャンの季節はもう終わりましたか？あさって着てたら変ですか？……

(答) 全然ありだと思いますよ～日中は暑いですが日が暮れるとけっこう涼しくて羽織るものほしいなって思いますし。(Yahoo!知恵袋)

「ぜんぜん(全然)」と共起する「アリ(有り)」の(1)～(5)の例は、ほとんど質問に対する返答であり、「可能」という意味を表す。「ぜんぜん(全然)アリ」を「ぜんぜん(全然)可能」に言い換えられる。

2. 「赤ちゃん」:

- (1) 「ああ、あの時は必死だったとはいえ、まだこんな小さい子を大きい子扱いしちゃったんだ。1歳半なんて、まだ全然赤ちゃんじゃんか！」と改めて上の子には気の毒なことをしたと後悔しました。

(Yahoo!知恵袋)

「ぜんぜん(全然)赤ちゃん」の例は、「おさない」という意味を表し、「ぜんぜん(全然)赤ちゃん」を「ぜんぜん(全然)おさない」に言い換えられる。

以上のように、表6の名詞の用例をいくつか取り上げて見た。「アリ、赤ちゃん」は名詞であるが、「ぜんぜん(全然)アリ」を「ぜんぜん(全然)可能」に、「ぜんぜん(全然)赤ちゃん」を「ぜんぜん(全然)おさない」に言い換えられるように、程度性を持ち、形容詞のような働きをしている。名詞の用例は形容詞の表現に言い換えられ、程度性を持つという共通した特徴がある。

表6にあげる動詞・形容詞・名詞という三つの品詞グループの各特徴を以上のように述べた。簡単にまとめると、まず、動詞グループの特徴は、可能動詞・状態を表わす動詞が多い。そして、程度を修飾する副詞と共起し、程度性を持つ表現が多いことである。次に、形容詞グループの特徴は、程度性を持つ語が多い。そして、プラス評価を表わす語が多いということである。最後に、名詞グループの特徴は、形容詞の表現に言い換えられ、程度性を持っていることである。以上は各品詞グループのそれぞれの特徴である。

以下では、表6の全体に共通した特徴を考察する。まず、数量的に多い動詞と形容詞グループの特徴から見ると、程度性を持つ語は肯定形式で「ぜんぜん」と共起することが分かる。また、「ぜんぜん」は程度のはなはだしさを表わす。その用法は、否定形式を呼応する場合の「ぜんぜん」とは違い、鈴木(1972)による「陳述副詞として文にあらわされた内容に対する話し手の全面否定の態度をあらわす」という用法ではなく、仁田他(2007)による「程度の完全否定」あるいは益岡・田窪(1989)による「程度が低いことを強調する」という用法でもない。否定形式を呼応しない場合の「ぜんぜん」は、「程度がはなはだしいことを強調する」の意味を表すと考えられる。表6の全体に共通した特徴を

以下のようにまとめられる。

「ぜんぜん(全然)」と共起する語はほとんど程度性を持つ。この場合の「ぜんぜん(全然)」は程度のはなはだしさを表わす。」

以上述べたように、2.4.2節では、「その他」の部分を表6のように、動詞・形容詞・名詞という品詞グループに分け、それぞれの特徴を考察した。また、それらの全体に共通した特徴も述べた。次節では、現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して集めてきた資料に基づき、副詞「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い表現を示し、そのような共起傾向を通して肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の「副詞における位置づけ」について考える。

2.4.3 「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の副詞における位置づけ

1.1.1節で言及したように、鈴木(1972)によると、陳述副詞は、述語の陳述的な意味を補足、強調するのであるから、述語の陳述的な意味をあらわす一定の形式と呼応する。本稿は「～ない」「～ず」などの文法的な否定形式を呼応する「ぜんぜん(全然)」を「陳述副詞」と扱う。

また、1.1.3節で言及したように、仁田(2002)によると、「程度副詞」は属性(質)や状態を表わす成分に係わってその程度性を修飾・限定するというものである。本稿は「いい」「いける」などの表現と肯定形式で共起する「ぜんぜん(全然)」を「程度副詞」と扱う。

服部(2007)は、表1のように「新聞」と「知恵袋」という二つのジャンルにおける「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い語を分類し、傾向をまとめたが、そのような傾向は、いったいどのようなことを反映しているのかについて述べていない。

[表1] 服部(2007)の「ぜんぜん(全然)」の共起傾向(再掲)

	新聞	知恵袋
--	----	-----

否定形式	2122	71.0%	1769	63.7%
相違類	666	22.3%	464	16.7%
だめ	126	4.2%	39	1.4%
別	23	0.8%	18	0.6%
平気	12	0.4%	42	1.5%
大丈夫	6	0.2%	76	2.7%
OK	1	0.0%	111	4.0%
良い	5	0.2%	67	2.4%
普通	1	0.0%	23	0.8%
いける		0.0%	10	0.4%
余裕		0.0%	5	0.2%
まし		0.0%	16	0.6%
その他	27	0.9%	137	4.9%
合計	2989	100%	2777	100%

表1のような共起傾向は、「ぜんぜん(全然)」が持っている副詞の機能と関連していると思われる。したがって、以下は「ぜんぜん(全然)」の共起傾向を通して、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の「副詞における位置づけ」について述べる。

表1を見ると、「否定形式(「～ナイ/ズ/ナシ/マイ/ン」など)」以外に、「相違類(「違う、異なる、変わる、異にする」である)」、「だめ」、「別(「別だ/の、別人、別物」などを含んでいる)」などの表現も、「ぜんぜん(全然)」と共

起する頻度が高いことがわかる。「相違類（「違う、異なる、変わる、異にする」である）、「だめ」、「別（「別だ/の、別人、別物」などを含んでいる）」などの表現は、「どの程度・ぐらい」などの程度を修飾する副詞と共起し、程度性を持つ。また、「十分/大丈夫・OK」「かなり/良い・普通・いける・余裕・まし」と言えるように、表1に示している「否定形式」でない表現は、ほとんど程度を修飾する副詞と共起し、程度性を持つ表現である。

本稿は、服部のように「ぜんぜん(全然)」と共起する使用回数の高い表現を、表7にまとめた。もっとも頻度の高い表現は「文法的な否定形式（「～ない」など）」であり、その次は「異なる類」、「その他」、最後は「マイナス評価を持つ語」である。序章で言及したように、「文法的な否定形式」は、金水・工藤・沼田（2000）によると、基本的に<述語否定=文否定>であって、主語と述語とのむすびつき（ネクサス）を否定するものである。

[表7] 「ぜんぜん(全然)」の共起傾向

	用例数	比率
文法的な否定形式	4281	72.91%
異なる類	975	16.60%
その他	385	6.56%
マイナス評価 を持つ語	231	3.93%
合計	5872	100%

表7を見ると、「ぜんぜん(全然)」は「文法的な否定形式」と共起する使用回数が圧倒的に多いが、ほかの文法的な否定形式でない「異なる類」・「その

他」・「マイナス評価を持つ語」との共起も四分の一を占めているということがわかる。そのような共起傾向を持っていることは、「ぜんぜん(全然)」が働いている副詞の機能を反映していると思われる。

第1章で述べたように、副詞における「ぜんぜん(全然)」の位置づけは、学者によってそれぞれであるが、大まかに「陳述副詞」と「程度副詞」という両種類にまとめられる。金水・工藤・沼田(2000)は、「陳述副詞」は基本的に文法的な否定形式と共起し、語彙的な否定形式とは共起しないと指摘し、語彙的な否定形式と共起するのは「程度副詞」としている。つまり、一般的に文法的な否定形式と共起するのは「陳述副詞」であり、語彙的な否定形式と共起するのは「程度副詞」である。

表7にある「異なる類」「その他」「マイナス評価を持つ語」という表現は、明らかに「文法的な否定形式」ではない。そのような「文法的な否定形式」でない表現は、金水・工藤・沼田(2000)の指摘によると、基本的に陳述副詞とは共起しなく、程度副詞と共起する。したがって、「ぜんぜん(全然)」が「異なる類」「その他」「マイナス評価を持つ語」と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」を「程度副詞」として扱うことができるだろう。また、服部(2007)の表1に示す「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い表現(平気、大丈夫、OK、良い、普通、いける、余裕など)は、ほとんど程度を修飾する副詞(かなり、十分、どの程度・ぐらいなど)と共起し、程度性を持つ表現である。そのような程度性を持つ表現と共起することから、「ぜんぜん(全然)」は肯定形式と共起する場合、「程度副詞」としての機能を働かすと考えられる。

また、2.4.2節で述べたように、表6(「その他」)にある「ぜんぜん(全然)」と共起する語はほとんど程度性を持つ。この場合の「ぜんぜん(全然)」は程度のはなはだしさを表わす。この特徴からも、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」は、程度副詞としての機能を働かすと考えられる。また、「その他」以外の「マイナス評価を持つ語」「異なる類」という「ぜんぜん(全然)」と肯定形式で共起する表現も、以下のように、ほとんど程度性を持つ語である。

◎ 「マイナス評価を持つ語」:

- ①明示的な語彙的否定形式を持つ語：無〇/無〇〇（無理、無用、無関心、無意味など）、不〇/不〇〇（不明、不備、不同意、不可能）、非〇〇（非常識、非効率）、つまらない（以下略）
- ②語彙の意味としてマイナス評価がやどっている語：素人、下手、ひどい、悪い、嫌、でたらめ、ばらばら、めちゃくちゃ、かつこ悪い、（以下略）
- ③実現が困難であることを表わす語：～がたい（とりがたい）、～かねる（賛成しかねる）、だめ（以下略）
- ④欠如・消滅を表わす語：欠如する、欠乏する、忘却する、忘れる、空く、失う、切離する、離れる（以下略）

このように、「マイナス評価を持つ語」の四つのタイプにある語は、たとえば「相当/無理」「かなり/ひどい」「ずいぶん/とりがたい」「どの程度/欠乏するか」などと言えるように、ほとんど程度副詞と共起し、程度性を持つ語である。そのような程度性を持つ「マイナス評価を持つ語」と共起することから、「ぜんぜん(全然)」は「程度副詞」としての機能を働かすと考えられる。また、「ぜんぜん(全然)」は「マイナス評価を持つ語」と共起する場合、以下のように程度のはなはだしさを表わしている。

- (8) 私たちはある程度、準備をしてきたつもりでしたが、現実的には全然不備で、特に妻の物は足らず、近所の妻の友だちや私の姉に電話で頼んで用意をしてもらいました。 (『淳』)

(9) 単車のことはぜんぜん素人なのですが、今回始めて単車を購入しようと思っています。 (Yahoo!知恵袋)

(10) 私は、あなたが米国人民は忘れやすいという言葉に、全然、賛成しかねます。 (『激動の現代史五十年』)

(11) そういう観点が全然欠如しておるでしょう。 (国会会議録)

以上のように、「文法的な否定形式」でない「マイナス評価を持つ語」と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」は「程度副詞」として働かると考えられる。また、「異なる類」にある語も、次のように、ほとんど程度性を持つ表現である。

◎ 「異なる類」:

違う、食い違う、別、別〇/別〇〇 (別物、別人、別次元、別平面など)、変わる、異なる、独特、独自、おかしい (以下略)

「異なる類」にある語は、たとえば「相当/違う」「かなり/変わる」「ずいぶん/異なる」などと言えるように、ほとんど程度副詞と共起し、程度性を持つ表現である。そのような程度性を持つ「異なる類」と共起することから、「ぜんぜん(全然)」は「程度副詞」としての機能を働かすと考えられる。また、肯定形式で「異なる類」と共起する場合、以下のように「ぜんぜん(全然)」は程度のはなはだしさを表わす。

(12) 同じことをいっているつもりでも、受け取られかたが全然違う。

(『ワープロ作文技術』)

(13) 「悪いな」と彼は僕に謝ったが、頭の中ではもう全然別のことを考えはじめているように見えた。 (『ノルウェイの森』)

(14) これは日本の経済の状況は、全体が大きく、それから技術水準も全然変わってきたわけですね。 (国会会議録)

このように、「文法的な否定形式」でない「異なる類」と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」は「程度副詞」として働くと考えられる。したがって、服部の表1と本研究の表7を合わせて考えると、「ぜんぜん(全然)」がそのような共起傾向を持っているのは、「ぜんぜん(全然)」の副詞の機能と関連していることが分かった。「ぜんぜん(全然)」は「マイナス評価を持つ語」「異なる類」「その他」という「文法的な否定形式」でない表現と共起する場合、主に「程度副詞」として働くということが判明した。(「ぜんぜん(全然)」がほかの程度性を持たない肯定表現(たとえば、「行く」など)と共起する例もいくつかあるが、その場合の「ぜんぜん(全然)」はどのような副詞として働いているのかは、まだ検討する余地があるが、今後の課題としたい。)

副詞における「ぜんぜん(全然)」の位置づけについて、従来の研究はおおよそ否定形式と呼応する「ぜんぜん(全然)」の場合を考察するものが多い。それに対して、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の位置づけについて、まだ詳しく述べられていない。本稿は、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」を、以上述べたように、主に「程度副詞」として位置づけたいと考える。

以上、2.4.3節では、まず、服部(2007)の表1に示された「ぜんぜん(全然)」と共起する頻度の高い表現(相違類、平気、大丈夫、OK、良い、普通、いける、余裕など)の特徴を考察し、程度を修飾する副詞(かなり、十分、どの程度・ぐらいなど)と共起することから、ほとんど程度性を持つ表現だと述べた。そして、表7を通して、本稿における「ぜんぜん(全然)」の共起傾向を示した。また、先行研究(服部)と本稿が調査した「ぜんぜん(全然)」の共起傾向によって、「ぜんぜん(全然)」は主に「程度副詞」として働き、従来、あまり述べ

られていない肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」の副詞における位置づけも明らかになった。次節は、第2章の結果をまとめる。

2.5 本章のまとめ

この章においては、現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して「ぜんぜん(全然)」と共起する例を5872個集め、その中に「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現は1591例もあることが判明した。使用回数が高い表現を表3にまとめた。

そして、工藤と近藤による指摘を踏まえながら、「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を、表4のように、「マイナス評価を持つ語」、「異なる類」、「その他」という三つのグループに分け、それぞれの用例数と比率を表5にまとめた。

それから、表4の「その他」による語を品詞で大別にし、表6に示した。表6の語を動詞・形容詞・名詞という品詞グループに分けて、それぞれの特徴と共通的な特徴について考察した。

◎ 「その他」のそれぞれのグループの特徴：

「動詞グループの特徴」：可能動詞・状態を表わす動詞が多い。そして、程度を修飾する副詞と共起し、程度性を持つ表現が多いのである。

「形容詞グループの特徴」：ほとんど程度副詞で修飾でき、程度性を持つ語である。そして、プラス評価を表わす語が多い。

「名詞グループの特徴」：形容詞の表現に言い換えられることである。そして、言い換えられた形容詞の表現は程度性を持つ語である。(たとえば、「ぜんぜん

ん(全然)アリ」を「ぜんぜん(全然)可能」に言い換えられる。「ぜんぜん(全然)赤ちゃん」を「ぜんぜん(全然)おさない」に言い換えられる。)

◎ 「その他」の全体に共通した特徴：

「ぜんぜん(全然)」と共起する語はほとんど程度性を持つ。この場合の「ぜんぜん(全然)」は程度のはなはだしさを表わす。」

また、現代日本語書き言葉均衡コーパスで集めた資料に基づき、副詞「ぜんぜん」の共起傾向を示した。服部の指摘(表1)と本稿の調査結果(表7)をあわせて考えると、「文法的な否定形式」でない表現は、ほとんど「程度性を持つ」という共通した特徴を持っていることがわかる。よって、「ぜんぜん(全然)」は肯定形式と共起する場合、主に「程度副詞」としての機能が働くと結論付けた。

従来の研究は、副詞における「ぜんぜん(全然)」の位置づけについて、否定形式と呼応する場合に限られることが多い。肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の場合については、詳しく述べられていない。本稿は、そのような肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」を「程度副詞」として位置づけたいと思う。

次の第3章では、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」の意味用法について考察する。

第3章

「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法

3.1 はじめに

第3章においては、まず3.2節では、従来の先行研究を踏まえてその問題点を取り上げる。次に3.3節では、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法について考察し、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法が、「とても」・「非常に」とどう違うかを述べる。また、野田(2000)における調査結果を述べ、なぜそのような調査結果があるのかを本稿の立場から解釈する。最後に、3.4節では第3章の内容をまとめる。

3.2 先行研究と問題点

従来の研究(鈴木、仁田など)は、「ぜんぜん(全然)」の意味用法について、否定形式と呼応する場合を考察するものが多い。「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法については、あまり述べていない。

また、1.2.3節で述べたように、茅野他(1993)は、「ぜんぜん(全然)」は肯定形式と共起する場合、「とても」「非常に」と意味用法が重なっていると指摘している。しかし、肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」をつねに「とても」「非常に」に言い換えられるとは限らない。

したがって、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法について、さらに考察する必要がある。また、本稿は「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法が、「とても」・「非常に」の意味用法とどう異なるかについて考察してみる。なお、以下、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」における「肯定表現」は「平気」「大丈夫」「OK」「良い」などのように、「語彙的な否定表現(だめなど)」にも「異なる類(違うなど)」にも属しない、いわゆる「その他」¹⁸に属する表現を指す。「ぜんぜん(全然)」と「語彙的な否定表現」、「異なる類」との共起について、先行研究ではすでに議論されているため、本稿は「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」

¹⁸ 2.3.2表4を参照。

の現象に焦点を絞りたいと思う。

3.3 「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法

この節においては、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法を見る。また、肯定表現と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」と「とても」・「非常に」の意味用法の違いも明らかにする。さらに、野田(2000)におけるアンケート調査を概観し、なぜそのような調査結果があるのかを本稿の立場から解釈する。

3.3.1 意味用法

「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者自身が想定した前提を否定する際に用いられると考えられる。まず、会話文で使われる「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を見る。

- (1) (問) 社会人の方で仕事帰りに映画館行く人いますか？1人で見れますか？カップルばかりで恥ずかしくないですか？

(答) 全然大丈夫。一人で観にいっちゃいます。(Yahoo!知恵袋)

例(1)は「質問」に対する「返答」の中で「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる文である。例(1)を見ると、話し手は聞き手の質問から「一人で映画館に映画を見に行くのが恥ずかしい」という情報を読み取ると考えられるが、その命題に対して異なる意見を持っている。その意見に反論するために、上記の情報を前提として想定し、それを否定するのに「全然大丈夫」という表現を使うと考えられる。それに対して、「大丈夫」という表現だけを使って返答する場合、話者の考えを強く主張するという意味がなくなる。つまり、「全然大丈夫」という表現を用いる場合は「大丈夫」という表現だけを使う場合と比べて、話者の考えを強く主張するという意味が読み取れる。その話者の主張を強く強調するという意味は、「ぜんぜん(全然)」によって付与された意味と考えられる。つまり、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を

否定するという意味を表すため、「肯定表現」のみを使う場合と比べて、自分の主張を強くする強調するという意味が生じるのである。次に会話文ではなく、地の文で使われる「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の例を見る。

- (2) 廃校っていっても、今は、俺の伯父さんが仕事部屋みたく使ってて、水も通ってるし手入れもされてるし、ぜんぜん余裕で暮らせるんだ。
(『夏は、夜。』)

例(2)では「廃校だから余裕で暮らせない」という社会の一般通念があると考えられる。しかし、「水も通っているし手入れもされている」という実際の状況があるため、話者は上記の一般的事実に対して否定的な意見を持ち、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」で「廃校だから余裕で暮らせない」という事実を否定すると考えられる。それに対して、「余裕」という表現だけを使って返答する場合、話者の考えを強く主張するという意味がなくなる。つまり、「ぜんぜん余裕」という表現を用いる場合は「余裕」という表現だけを使う場合と比べて、話者の考えを強く主張するという意味が読み取れる。その話者の主張を強く強調するという意味は、「ぜんぜん(全然)」によって付与された意味と考えられる。つまり、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を否定するという意味を表すため、「肯定表現」のみを使う場合と比べて、自分の主張を強くする強調するという意味が生じるのである。ここでも「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提があり、それを否定する場合に用いられることが分かる。

このように、質問に対する返答文でも平叙文でも、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、話者が自ら想定した前提があることが分かる。その前提は例(1)のように、聞き手の質問から形成されるものもあり、例(2)のように何らかのものやこと(廃校など)に対する社会の一般通念や実際の状況から形成されるものもある。そして、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、そのような前提を否定する場合に用いられる。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、話者が「自ら想定した前提を否定する」という意味用法があり、それによって、

相手や一般の人々と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たすと考えられる。

それに対して、何らかの前提が想定しにくい場合は、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は用いられにくいと思われる。以下は作例である。

(3) (はじめて会った人に)「*ぜんぜんきれいですね」 (作例)

例(3)は目の前で初めて会った人に「きれい」と褒める場合である。この場合は何らかの前提が想定しにくいので、「ぜんぜん(全然)+肯定表現(きれい)」を用いると、不自然な文になってしまう。それに対して、何らかの前提が想定しやすい場合には、例(4)のように「ぜんぜん(全然)+肯定表現(きれい)」を用いることが比較的自然的になる。

(4) (友達は自分の彼女がきれいではないと言って、写真を見せた。その後、友達の彼女に会った。彼に言う)「ぜんぜんきれいですね」 (作例)

例(4)は一度友達から彼女の写真を見せられた状況である。写真を見たとき、友達の話から「(友達の)彼女はきれいではない」という情報を読み取った。しかし、実際本人に会うと、その情報に反するような事実が分かった。この場合は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用が自然的になるが、これは話し手が「友達の彼女はきれいではない」ということを前提として想定し、それを否定するという文脈的条件があるからである。それによって友達と異なる意見を表すことができると考えられる。

このように、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は何らかの前提が想定しにくい場合は用いられにくく、何らかの前提が想定しやすい場合は用いられやすいことが分かる。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は単に肯定表現の「程度のはなはだしさ」を修飾するのなら、(3)のような何らかの前提が想定しにくい場合も、どのくらい「きれい」なのかを修飾することができると思われる。しかし、例(3)に示すように、何らかの前提が想定しにくい場合には、「ぜんぜん(全然)

＋肯定表現」を用いると、不自然な文になってしまう。したがって、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」は単に「程度のはなはだしさ」を修飾するのではなく、話者自身は何らかの前提を想定し、それを否定するという意味用法があると考えられる。そして、それによって、相手や一般の人々と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たすと考えられる。

茅野他(1993)は、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」は、以下の例のように、「非常に」「とても」の意味で使われると指摘している。

(5) 新しいあの歌手のレコードは全然すてきですね。

茅野他(1993: 142)

しかし、「ぜんぜん(全然)」の意味は「非常に」「とても」の意味とまったく同じではない。例(5)は「新しい歌手だからレコードがあまり期待できない」という社会の一般通念を前提とした発言である。話者は何らかの状況を根拠に上記の一般通念に反するような意見を持つようになるため、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」で「新しい歌手だからレコードがあまり期待できない」という想定した前提を否定すると考えられる。このように、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」は話者自身が想定した前提を否定する際に用いられる。また、その意味用法によって、相手やかつての話者自身と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たすと考えられる。したがって、例(5)の「全然すてき」を「非常にすてき」「とてもすてき」に言い換えられると、「話者自身が想定した前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」の意味用法がなくなってしまう、単に程度のはなはだしさを強調するようになると思われる。

以下の例(6)(7)のように、想定された前提が前文脈を通して明示される場合、「ぜんぜん(全然)」と「とても」「非常に」の違いが一層明らかとなる。まず、次の例を見る。

(6) 第6弾の時に「最高気温二十度、殺す気か！」なんて言っていたが、二十度なんてぜんぜん(全然)/とても/非常に暖かかったね！！

例(6)を見ると、話者以外の誰かが「最高気温二十度」という天気予報に対して、「最高気温二十度、殺す気か！」と言っていた前提が明示されたということがわかる。しかし、話者はその人の発言に対して否定的な気持ちを持ち、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用い、「最高気温二十度、殺す気か！」というほかの人の発言を前提にし、その前提を否定すると考えられる。このように、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を否定する際に用いられる。また、その意味用法によって、「二十度なんて全然暖かかったね!!」というほかの人と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)」を「とても」「非常に」に言い換えると、話者が自ら想定した前提(「最高気温二十度、殺す気か!」)を否定する意味用法がなくなり、単に「暖かい」の程度のはなはだしさを強調するようになると思われる。また、例(7)を見る。

(7) (問) よく人から、汗をかく量が多いと言われます。これは、ただの体質でしょうか？

(答) 新陳代謝がいいからと考えると考えればいいのでしょうか？汗をかかない人よりは、ぜんぜん(全然)/?とても/?非常にいいですよ！代謝がいいんです！汗をかきにくい人は、身体に何らかのツケがきますから。

(Yahoo!知恵袋)

例(7)を見ると、話し手は聞き手の質問から「汗をかく量が多いのはよくない」という情報を読み取るが、その命題に対して異なる意見を持っている。その意見に反論するために、上記の情報を前提として想定し、それを否定するのに「ぜんぜん(全然)いい」という表現を使うと思われる。このように、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を否定する際に用いられる。また、その意味用法によって、「汗をかかない人よりは、汗を多くかく人

のほうがいい」という相手と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)」を「とても」「非常に」に言い換えると、話者が自ら想定した前提(「汗をかく量が多いのはよくない」)を否定する意味用法がなくなり、単に「いい」の程度のはなはだしさを強調するようになると考えられる。また、例(7)では比較する対象(汗をかかない人)が明示されたので、「とても」「非常に」を用いると、やや不自然に感じられる。

このように、想定された前提が前文脈を通して明示される場合、「ぜんぜん(全然)」と「とても」「非常に」の意味の違いが一層明らかとなる。つまり、「ぜんぜん(全然)」を「とても」「非常に」に言い換えると、「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法がなくなってしまふ。また、「ぜんぜん(全然)」は「とても」「非常に」と比べて、より強調するという意味も「前提を否定する」という意味から来たものである。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、茅野他(1993)が指摘した「ただ「非常に」「とても」の意味で使われる」のではない。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、「非常に」「とても」には見られない「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つ。このように、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、「とても」「非常に」と同様に「程度のはなはだしさを修飾する」という意味があるが、「とても」「非常に」には見られない「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが明らかとなった。

以上、3.3.1節では、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法について述べた。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法があり、それによって、相手や一般の人々と異なる意見や考えなどを表すという機能を果たす。また、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と「とても」「非常に」との違いについても考察した。

次の3.3.2節では、野田(2000)における調査結果を概観し、なぜそのような調査結果があるのかを本稿の立場から解釈する。

3.3.2 野田(2000)の調査について

野田は「ぜんぜん(全然)」と肯定形式の共起について、アンケート調査を行

い、若年層における「ぜんぜんおいしい」・「ぜんぜんまずい」・「ぜんぜんきれい(だ)」・「ぜんぜんきたない」という表現がそれぞれ「予想なし」「相手の意見と異なる」「自分の予想と異なる」という文脈を伴うときの許容度について、差異を比較した。「相手の意見」と「自分の予想」などのような否定する前提がある場合と、「予想なし」のような否定する前提がない場合と、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は許容度に差異が見られる。

野田は、以下のような文をアンケート調査の対象者に提示する例として取り上げている。

- (8) (味を予想せずに食べて)「これ、ぜんぜん(おいしい/まずい)」
- (9) («おいしいよね」と言われて)「いや、ぜんぜんまずいよ」
- (10) («まずいよね」と言われて)「いや、ぜんぜんおいしいよ」
- (11) 「まずそうに見えたけど、ぜんぜんおいしい」
- (12) 「おいしそうに見えたけど、ぜんぜんまずい」

例(8)は「予想なし」の文脈で「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる文である。例(9)と例(10)は「相手の意見と異なる」の文脈で「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる文である。例(11)と例(12)は「自分の予想と異なる」の文脈で「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる文である。

文の自然さの判断については、「○:まったく自然」「△:多少不自然」「×:不自然」という三段階で若年層対象者に判断してもらいとされている。野田によると、若年層というのは、18才から25才までの対象者のことである。また、実施時期は1999年6月であり、総計50名の若年層の対象者が参加した。

野田は若年層アンケートの結果を四つの図に示した。なお、「まずい」「きたない」は本研究では「語彙的な否定表現」と扱うものであるため、ここでは取り上げないことにする。前述したように、ここでは「平気」「大丈夫」「OK」「良い」などのような「肯定表現」に焦点を絞り、「ぜんぜん(全然)」とそのような「肯定表現」と共起する場合の意味用法について考察する。したがって、以下では「まずい」「きたない」の図を除き、若年層における「ぜんぜんおいし

い」「ぜんぜんきれい (だ)」の許容度と文脈の図のみ示す。まず、図1の「若年層における「ぜんぜんおいしい」の許容度と文脈」を見る。

図1¹⁹：若年層における「ぜんぜんおいしい」の許容度と文脈

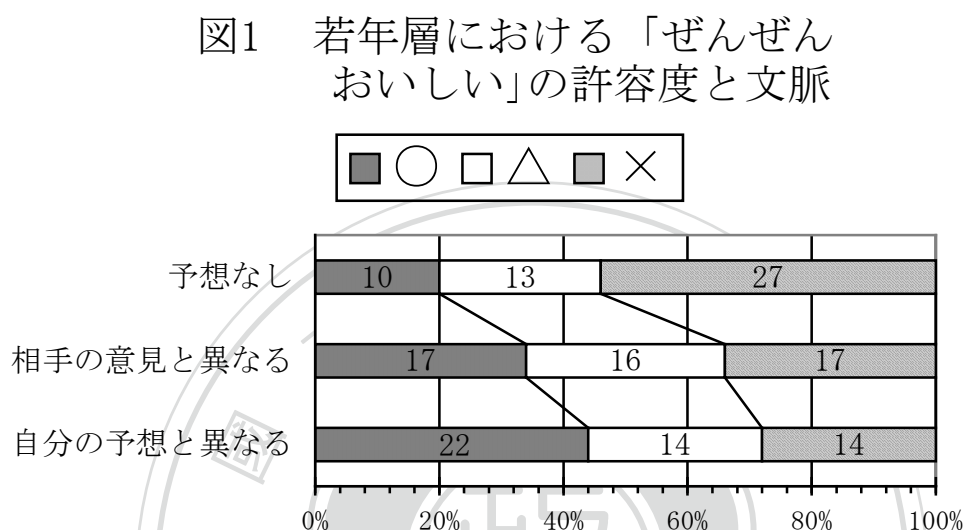


図1を見ると、「ぜんぜんおいしい」に対する許容度は、「予想なし」のときが一番低く（10名、20%）、「相手の意見と異なる」のときが17名で34%、「自分の予想と異なる」のときが一番高い（22名、44%）ということがわかる。「相手の意見と異なる」の文脈と「自分の予想と異なる」の文脈で、「ぜんぜんおいしい」を用いる許容度が比較的に高いと言えよう。また、「ぜんぜんおいしい」に対する許容度は、全般的に「○：まったく自然」は32.67%、「△：多少不自然」は28.67%、「×：不自然」は38.67%が占めている。

野田はこのようなアンケート調査の結果が見られる理由について述べていないが、この現象は本稿が主張した「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、話者が「自分から想定した前提を否定する」という意味用法を持つことと関連していると考えられる。

¹⁹図1から三つの表現の許容度にあまり差が見られないとも読み取れる。しかし、これは提示された文脈が明確ではないことと関連していると考えられる。明確な文脈が与えられると許容度の差がさらに大きくなる可能性がある。

つまり、「相手の意見と異なる」の場合は、(10)のように、話し手は聞き手の話から「まずい」という情報を読み取り、それに対して異なる意見を持っている。相手の意見に反論するために、「まずい」ことを前提として想定し、それを否定するのに「ぜんぜんおいしい」という表現を使うと考えられる。また、「自分の予想と異なる」の場合は、(11)のように、「まずそうだ」という話者が自ら想定した前提がある。しかし、実際そのものを食べたら、話者は上記の自ら想定した前提に対して否定的な意見を持ち、「ぜんぜんおいしい」という表現で「まずそうだ」という予想を否定すると考えられる。したがって、「相手の意見と異なる」の場合と「自分の予想と異なる」の場合は、本稿が主張した「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすと考えられる。

それに対して、「予想なし」の場合は、(8)のように、何らかの前提が想定しにくいため、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たしていない。したがって、「予想なし」の場合に「ぜんぜんおいしい」を用いると、不自然になると考える人が多いと思われる。このように、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は想定された前提がない場合は用いられにくく、想定された前提がある場合は用いられやすいのである。

以上の説明から、図1のアンケート調査の結果が見られる理由について、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、話者が自ら想定した前提があって、それを否定する場合に用いられるという意味用法を持つことと関連していることが分かった。続いて、図2の「若年層における「ぜんぜんきれい(だ)」の許容度と文脈」を見る。

図2：若年層における「ぜんぜんきれい(だ)」の許容度と文脈

図2 若年層における「ぜんぜん
きれい(だ)」の許容度と文脈

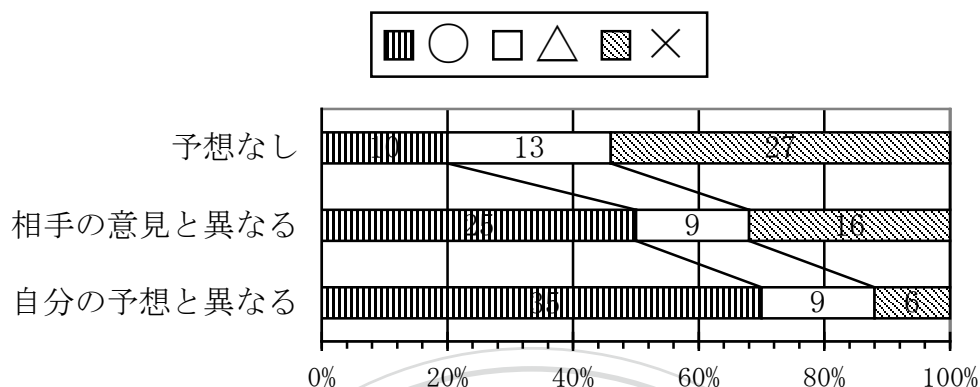


図2を見ると、「ぜんぜんきれい(だ)」に対する許容度は、「予想なし」のときが一番低く（10名、20%）、「相手の意見と異なる」のときが25名で50%、「自分の予想と異なる」のときが一番高い（35名、70%）ということがわかる。「相手の意見と異なる」文脈と「自分の予想と異なる」文脈で、「ぜんぜんきれい(だ)」を用いる許容度が比較的高いと言えるだろう。また、「ぜんぜんきれい(だ)」に対する許容度は、全般的に「○: まったく自然」は46.67%、「△: 多少不自然」は20.67%、「×: 不自然」は32.67%が占めている。

前述したように、野田はこのようなアンケート調査の結果が見られる理由について述べていないが、この現象は本稿が主張した「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法と関連していると考えられる。

つまり、「相手の意見と異なる」の場合は、話し手は聞き手の質問や話から何らかの情報を読み取る。しかし、そのことに対して話者は異なる意見を持ち、相手の意見に反論するために、読み取った情報を前提として想定し、それを否定するのに「ぜんぜんきれい(だ)」という表現を用いると考えられる。また、「自分の予想と異なる」の場合は、話者自身が何らかの予測・予想がある。しかし、実際の状況を見て、話者は以前の予測・予想に対して否定的な意見を持ち、「ぜんぜんきれい(だ)」という表現で自ら想定した前提を否定すると考えられる。したがって、「相手の意見と異なる」の場合と「自分の予想と異なる」の場合は、本稿が主張した「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の「前提を否定する」

という必要な使用条件を満たすと考えられ、その二つ場合に「ぜんぜんきれい(だ)」を用いると、比較的許容度が高いのである。

それに対して、「予想なし」の場合は、何らかの前提が想定しにくいので、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の「前提を否定する」という必要な使用条件を満たしていない。したがって、「予想なし」の場合に「ぜんぜんきれい(だ)」を用いると、不自然になってしまう。

このように、図2のアンケート調査の結果が見られる理由について、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、話者が自らから想定した前提があって、それを否定するという意味用法を持つことと関連していることが分かった。

野田(2000)の調査から、若年層における肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」は、「相手の意見と異なる」の場合と「自分の予想と異なる」の場合に用いられるとき、許容度が比較的高いということがわかった。その結果が見られる理由について野田は述べていないが、本稿が主張した「話者が自ら想定した前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法と関連していることが判明した。次の節では、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」はこのような意味用法を持つ理由について述べる。

3.3.3 「ぜんぜん(全然)+否定表現」との関連

「ぜんぜん(全然)+肯定表現」はなぜ前節で述べた意味用法を持つのかについて、「ぜんぜん(全然)」の「否定形式を呼応する」という典型的用法と関連していると思われる。以下は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と「ぜんぜん(全然)+否定表現」の関係から見ていきたいと思う。

まず、佐野(2010)は通時的な考察から「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と「ぜんぜん(全然)+否定表現」の関係を以下のように述べている。

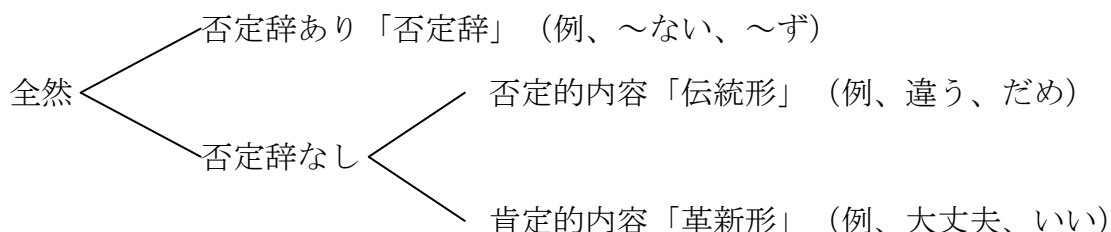
「全然」は江戸後期に中国語からの借用語として日本語に入ってきた。これが日本語として定着・確立するのは明治40年代以降で、この時代の「全然」は否定的にも、否定辞を伴わずに肯定的にも使うことができた。つまり、現在誤った用法と見なされている肯定的用法がかつては正しい用法だったということである。(中略)しかしな

がら、大正期の終わり頃から肯定的用法が使われなくなり、結果として否定的用法のみが正しい用法とされるようになったと言われる。(中略)否定的用法に関しては一貫して使われており、この意味では変化がないが、肯定的用法に関しては元々使われていたものが昭和前期頃から使われなくなり、昭和後期頃から再度使われ出したということが見て取れる。つまり、肯定・否定の二項対立に限って言えば、「全然」の変化は「否定から肯定へ」ではなく、「肯定的用法の復活」の方が事実を正しく反映しているとも言える。」

佐野 (2010 : 34)

佐野の指摘によると、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と「ぜんぜん(全然)+否定表現」の関係は、「否定表現を呼応することから肯定表現を呼応することに変化する」のではなく、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」という用法が復活するのであるということが分かる。

また、佐野は「ぜんぜん(全然)」の呼応表現について、次のように分類している。まず、呼応表現が「～ない」、「～ず」などの否定辞である場合、これらを「否定辞」とする。それに反して否定辞でない場合、否定辞を伴わないものをさらに2種類に分け、呼応表現が「違う」、「だめ」などのように本稿では「異なる類」と「語彙的な否定表現」に分類された否定的内容である場合は「伝統形」とし、「大丈夫」、「いい」などのように本稿では「その他」と分類された肯定的内容である場合は「革新形」とする。佐野は、図3²⁰のように「ぜんぜん(全然)」の呼応表現の分け方を示している。



²⁰佐野は、梅林(1994)の分け方に基づき、「ぜんぜん(全然)」を図3のようにその呼応表現の種類によって分類した。

図3 「全然」の呼応表現による分類

佐野 (2010 : 35)

また、佐野は以下のように指摘している。

「近年多く見られるようになった革新形が確かに徐々に増加してきている。(中略)単純に肯定的用法が増加してきたということではなく、従来使用されてきた否定辞と伝統形に替わって革新形が使用されるようになるという呼応表現間の役割交替が起こっていると言えるのである。また、伝統形は打消し表現(明示的な否定辞)を伴わないが否定的な意味合いを持つということを考えると、否定的な呼応表現全体が減少傾向にあり、それに代わって肯定的な呼応表現が増加していると考えられる。」

佐野 (2010 : 37)

佐野の指摘から、「ぜんぜん(全然)」は「～ない」「～ず」のような否定形式や「違う」のような「異なる類」、「だめ」のような「語彙的な否定表現」などと共起するほかに、「大丈夫」「いい」のような肯定表現と共起することが多く見られるようになったということが裏付けられる。また、佐野の指摘から見ると、「ぜんぜん(全然)」は「～ない」「～ず」などの否定辞や「違う」「だめ」のような「伝統形」と共起することが全体的に減少する傾向があり、それに代わって「大丈夫」「いい」のような革新形が増加しているということがわかる。「ぜんぜん(全然)」の呼応表現は、従来使用されてきた否定辞と伝統形に替わって革新形が使用されるようになるという呼応表現間の役割交替が起こっているということがわかる。

このように、佐野(2010)は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を「ぜんぜん(全然)」の「肯定的用法の復活」と捉えた。また、「ぜんぜん(全然)」の呼応表現を図3のように分類し、「否定的な呼応表現全体が減少傾向にあり、それに代わって肯定的な呼応表現が増加している」と指摘した。

本稿は、さらに「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と「ぜんぜん(全然)+否定表

現」の意味関係から考察したいと思う。

第1章で言及したように、先行研究では「ぜんぜん(全然)」についてさまざまな議論が行われた。「ぜんぜん(全然)」は主として、「文にあらわされた内容に対する話し手の「全面否定」という態度をあらわす(鈴木1972)」「否定に呼応する副詞である。広く否定表現にかかわり、打ち消す気持ちを強調する。否定を客観的に強め、その動作や状態がほんのわずかも成立しない、不十分、不完全ではなく、ゼロの状態を言う(森田1977)」のように扱われている。また、2.4.3節における表1²¹・表7²²を見ると、「ぜんぜん(全然)」が否定形式と共起する用法は語彙的な否定表現やその他の肯定表現と共起する用法に比べ、遥かに使用率が高いことがわかる。したがって、「ぜんぜん(全然)」は「否定形式」と呼応する用法がもっとも一般的で基本的であると言える。

本稿では近年多く見られるようになった「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を考察し、その表現が成立するには、話者が「自ら想定した前提を否定する」という条件が必要であることが判明した。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」はその意味用法を持つのは、「ぜんぜん(全然)」の「否定形式を呼応する」という基本的な用法と関連していると思われる。

「ぜんぜん(全然)」のもっとも基本的な用法は、例(13)のように、「～ない」などの否定辞を伴い、打ち消す気持ちを強調し、「全面否定」という態度を表す。

(13) 自分でも妊娠してるなんて全然気づいてなかったのよ。

(『冷たくて優しい指先』)

例(13)では、「ぜんぜん(全然)」は否定辞「ない」を呼応し、「妊娠している」ということに対して、完全に、ちっとも気づいていないという「その動作や状態がほんのわずかも成立しない、ゼロの状態を言う」ということを表し、その文にあらわされた内容に対する話し手の「全面否定」という態度を表して

²¹表1：服部(2007)による調査結果である。

²²表7：本稿による調査結果である。

いる。

このように、「ぜんぜん(全然)」のもっとも基本的で典型的用法は「ぜんぜん(全然) + 否定表現」であり、「否定辞を呼応し、その動作や状態がほんのわずかも成立しない、ゼロの状態を言う。また、文にあらわされた内容に対する話し手の「全面否定」という態度を表し、打ち消す気持ちを強調する」と考えられる。本稿の考察から、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが分かった。つまり、「ぜんぜん(全然)」は肯定表現と共起するが、意味的には何らかの事柄を否定するという否定的な部分を持つ。この何らかの事柄を否定するという意味は「ぜんぜん(全然) + 否定表現」という「ぜんぜん(全然)」の基本的な用法を持つ「話し手の全面否定という態度を表し、打ち消す気持ちを強調する」という意味から派生されたものであると考えられる。このように、近年多く見られた「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」は形式的に「ぜんぜん(全然) + 否定表現」という「ぜんぜん(全然)」の典型的な用法とまったく相反するが、意味的には共通する部分があることが分かる。つまり、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」は「ぜんぜん(全然) + 否定表現」という典型的な用法から派生された用法であると言える。

以上のように、3.3.3 節では「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」と「ぜんぜん(全然) + 否定表現」の関係を見た。また、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」が本稿が主張した意味用法を持つ理由について、「ぜんぜん(全然) + 否定表現」という「ぜんぜん(全然)」の典型的な意味用法から「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法が派生されたと述べた。次の3.4 節では、第3章の結果をまとめる。

3.4 本章のまとめ

この章においては、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法について考察した。「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが判明した。そして、「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」の意味用法と「とても」「非常に」との違いを述べた。「ぜんぜん(全然) + 肯定表現」は、「とても」「非常に」と同様に「程度のはなはだしさを修飾する」という意味があるが、「とても」「非常に」には見られない「話者が自

ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが明らかとなった。

また、野田（2000）におけるアンケート調査結果（図1・図2）を概観した。若年層における肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」は、「相手の意見と異なる」の場合と「自分の予想と異なる」の場合に用いられるとき、許容度が「予想なし」の場合に用いられるときより比較的高いという結果が見られた。その結果が見られる理由について、野田は述べていないが、本稿が主張した「話者が自ら想定した前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法と関連していることが判明した。つまり、「相手の意見と異なる」の場合と「自分の予想と異なる」の場合は、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすため、比較的に許容度が高いのである。それに対して、「予想なし」の場合は、何らかの前提が想定しにくいので、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の「前提を否定する」という必要な使用条件を満たしていない。したがって、「予想なし」の場合に「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いると、不自然になってしまうのである。

最後に、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つ理由について述べた。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、「ぜんぜん(全然)+否定表現」という典型的用法から派生された用法であると考えられる。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は形式的に否定表現と共起しないが、意味的には何らかの事柄を否定するという否定的な部分を持つ。何らかの事柄を否定するという意味は「ぜんぜん(全然)+否定表現」という「ぜんぜん(全然)」の基本的な用法が持つ「話し手の全面否定という態度を表し、打ち消す気持ちを強調する」という意味から派生されたものであると考えられる。

次の第4章では「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい言語形式について調べる。また、そのような言語形式が見られる理由についても考察する。

第4章

「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい 言語形式

4.1 はじめに

第4章においては、まず4.2節では、従来の先行研究を踏まえてその問題点を取り上げる。次に4.3節では、「明示的比較形式」のほかに、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい言語形式を調べる。そして、そのような言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について考察する。最後に、4.4節では第4章の内容をまとめる。

4.2 先行研究と問題点

1.2.5節で述べたように、服部(2007)は、否定形式及び肯定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」が、明示的比較形式(「～より、～比べて」、「～よりも、～に比べると」など)を伴う用例の比率を、それぞれ以下のように示している(表2)。(太字は筆者によるものである。頻度が高いものを表す。)

[表2] 服部(2007)の「ぜんぜん(全然)」が「明示的比較形式」を伴う比率
(再掲)

	新聞			知恵袋		
	全数	比較形式付	比率	全数	比較形式付	比率
否定形式	2122	6	0.3%	1769	4	0.2%
相違類	666	3	0.5%	464	5	1.1%
だめ	126		0.0%	39		0.0%
別	23		0.0%	18		0.0%

平気	12		0.0%	42		0.0%
大丈夫	6		0.0%	76		0.0%
OK	1		0.0%	111	2	1.6%
良い	5	2	40.0%	67	25	37.3%
普通	1		0.0%	23		0.0%
いける				10	1	10.0%
余裕				5		0.0%
まし				16	16	100%
その他	27	7	25.9%	137	38	27.7%
合計	2989	18	0.6%	2777	91	3.3%

表2によると、「ぜんぜん」と「良い」、「まし」などの肯定表現と共起する場合、明示的比較形式を伴う例の比率が極めて高い。しかし、ほかの「普通」、「余裕」などの肯定表現は、「ぜんぜん」と共起する場合、そういう傾向が見られない。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は上記の明示的比較形式以外に、どのような言語形式と共起しやすいのか、またはそのような言語形式と共起しやすい理由について考察する必要がある。

なお、服部は表2における否定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の明示的比較形式付きの用例についても考察したが、本稿は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起する言語形式に着目したいため、否定形式と共起する「ぜんぜん(全然)」の用例を除く。また、表2の「相違類」「別」は本稿では「異なる類」と扱い、「だめ」は「語彙的な否定表現」と扱うものである。「ぜんぜん(全然)+語彙的な否定表現」と「ぜんぜん(全然)+異なる類」については先行研究でさまざまな議論が行われ、多様な言語形式と共起する現象が見られる。したが

って、本稿は、表2における「平気」「大丈夫」「OK」「良い」「普通」「いける」「余裕」「まし」という「語彙的な否定表現」にも「異なる類」にも属しない肯定表現と共起しやすい言語形式について考察する。以下、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」における「肯定表現」は、3.2節で言及したように「平気」「大丈夫」「OK」「良い」などの「語彙的な否定表現」にも「異なる類」にも属しない、「その他」に属する表現を指す。また、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい言語形式について考察するほかに、そのような言語形式と共起しやすい理由についても考える。

4.3 「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の言語形式

この節においては、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の言語形式について論じ、先行研究で述べられた明示的比較形式(「～より、～比べて」、「～よりも、～に比べると」など)のほかに、どのような言語形式と共起しやすいのか、またそのような言語形式と共起しやすい理由についても述べる。

4.3.1 「ぜんぜん(全然)+平気・大丈夫・OK・良い・普通・いける・余裕・まし」の言語形式

本稿は、現代日本語書き言葉均衡コーパスから「ぜんぜん(全然)」と「平気」「大丈夫」「OK」「良い」「普通」「いける」「余裕」「まし」などの肯定表現と共起する例を収集し、それぞれの表現と共起しやすい言語形式について考察する。以下のように、「平気」「大丈夫」「OK」「良い」「普通」「いける」「余裕」「まし」と共起しやすい言語形式の用例数・比率及びそれぞれの例文を提示していく。

① 「平気」：63例

(1) 「～ても/～でも」：11例、17.46%

俺は基本的に、一人でも全然平気なタイプです。(Yahoo!ブログ)

(2) 「～が/けど(けれど、けれども)/のに」：9例、14.28%

秒さんが緊張して、テーブルの上に置いてあったオーデコロンの壺を倒してしまった。ますますとんでもない匂いになって、鼻がひん曲がってしまうかと思ったくらいなのに、彼女、全然平気な顔をしていたわ。
(『不安な童話』)

(3) 「しかし/だけど/でも」：7例、11.11%

味は、ハッキリ言って、激甘です。でも、私は甘いのが好きなので、全然平気です。
(Yahoo!ブログ)

(4) 「よ」：6例、9.52%

「あら、お立ち台に乗っかる子は、見られたってぜんぜん平気よ」
(『哀しき檸檬色の密室』)

② 「大丈夫」：51例

(1) 「よ」：12例、23.52%

「親はなくとも子は育つてことをさあ、俺たちで証明してやろうぜ。俺を見ろ。光浩を見ろ。ほとんどみなしご状態じゃんか。なのに、こんなに立派に育っている。寛司なんか全然大丈夫だよ」
(『ネバーランド』)

(2) 「～ても/～でも」：8例、15.68%

私も日本と海外とで遠距離をしていますが、すでに1年以上経過。それでもお互いの事を信用しあってるので多少の連絡がなくても全然大丈夫です。
(Yahoo!知恵袋)

(3) 「～が/けど(けれど、けれども)/のに」：6例、11.76%

数年前に、ちょっとしたニュースになりましたが、今は全然大丈夫

で、とても良いお湯ですよ。

(Yahoo!ブログ)

(4) 「しかし/だけど/でも」: 2例、3.92%

(問) いろいろあって今日、彼氏と別れました。あたしから別れを切り出しました。でもへこんでます(そういう事しか言えない状況だったので) この年齢ですが、これから先 新しい彼氏はできるのかしら?不安です。。

☆二十八才 女☆

(答) 女って1つの区切りとして三十までに・・・と思いがち<>確かに三十超えるとなんだか不安。だけど全然大丈夫^^ある意味三十までにまた恋愛ができるなんてHAPPYじゃない!頑張れ~!!

(Yahoo!知恵袋)

③ 「OK」: 64例

(1) 「～ても/～でも」: 14例、21.87%

カレードーナツを食べてみました!!今回は家で食べたので三十秒だけ「チーン」ガブリと食べるとカレーは甘口と中辛の間ぐらいの感じでしょうかね。辛口がダメな方やお子さんでも全然OKだと思います。

(Yahoo!ブログ)

(2) 「よ」: 9例、14.06%

それから、あなたの連絡しようとしてる言い方で全然okと思いますよ!

(Yahoo!知恵袋)

(3) 「～が/けど(けれど、けれども)/のに」: 5例、7.81%

慣れないとガクガクしたり、エンジンが唸りを上げて勇ましい運転になったりしますが、全然OKです。焦らず、余裕を持つのが一番

のコツです。

(Yahoo!知恵袋)

- (4) 「しかし/だけど/でも」：5例、7.81%

アニメのベルも、ちょっぴり大人っぽい感じですよんねえ♪足上げとかも、かなり高くまであがっててすごいビックリしちゃいましたよ！ちょっぴりだけ、声が枯れてるところがあったかなあ……。
でも、全然OKです！

(Yahoo!ブログ)

- ④ 「良い」：56例

- (1) 「明示的比較形式」：25例、44.64%

私は、ニキビがおさまってきましたが今でも2週間に1度、皮膚科へ行っています。皮膚科へ行けば、内服薬、外用薬共に処方してくれるので皮膚科へ行くのが一番ですよ。効き目も、そこら辺の薬局で売っているものよりも全然いいですから。

(Yahoo!知恵袋)

- (2) 「よ」：13例、23.21%

逆に嬉しいよね。そういう風に別れてしまったけども、それでも自分が付き合ってた彼女が自分のことを応援してくれてるって、そういうのってやっぱり力になるし、別れてまで野球に賭けるんだから余計に自分にもいい意味でプレッシャーをかけれるというか.....
全然いいと思うよこれ。

(Yahoo!ブログ)

- (3) 「～ても/～でも」：6例、10.71%

歌える曲が少なくても全然良いと思います。

(Yahoo!知恵袋)

- (4) 「しかし/だけど/でも」：4例、7.14%

今のテントに比べるとなんかこう張りが無いというかなんというか。でも、全然いいですねこれ、今ではもう生産されていないモデ

ルなのですが、手放すつもりは全く無く…… (Yahoo!ブログ)

⑤ 「普通」：16 例

(1) 「～ても/～でも」：3 例、18.75%

三十一歳なんてまだ結婚してなくても全然普通ですよ。

(Yahoo!知恵袋)

(2) 「～が/けど (けれど、けれども) /のに」：3 例、18.75%

生理前の2週間は下腹部が異様に重いが、今は全然普通。

(Yahoo!ブログ)

(3) 「よ」：3 例、18.75%

(問)：今始めて気付いたのですが、エビが金魚のフンを食べています。多分 今までも食べていたんだと思います。これは そんなにおかしい事ではないのですか？栄養はあるのですか？

(答)：うん。全然普通の事だよ。金魚の糞には未消化の餌が沢山あるので、エビ達にはゴチソウなんです……

(Yahoo!知恵袋)

(4) 「しかし/だけど/でも」：1 例、6.25%

友達の子は3人とも3歳まで話さなかったそうです。でも、全然普通ですよ。ウチの長男も1歳9ヶ月まで全く話しませんでした。

(Yahoo!知恵袋)

⑥ 「いける」：6 例

(1) 「よ」：2 例、33.33%

(問) ミスタードーナッツにおっさん一人で買いに行けますか？

(答) 全然行けますよお～ (^ 0 ^) /行って下さいなあ～！！

(Yahoo!知恵袋)

(2) 「～ても/～でも」：1例、16.66%

「ストリートは、ノーブランドでも着こなし次第で全然行けますよ」
って言うならどういう着こなしなのか教えてもらいたいよね。

(Yahoo!知恵袋)

⑦ 「余裕」：4例

(1) 「よ」：1例、25%

「やはりな…。伽羅の細い腰では辛いのは判っていたのだが…。大
分手加減したつもりだったんだが…」……「なっ…何言ってる
んだよっ！ あのくらい、全然余裕だったよっ！」

(『ずっとあなただけ』)

(2) 「～が/けど (けれど、けれども) /のに」：1例、25%

(問) 医療事務の正社員は仕事と家庭両立できますか？

(答) 個人の診療所で事務やってますが、時間的に全然余裕あります。

午前の診療と午後の診療の間(昼休み)が2時間くらいあるので有効にこの時間を使って過ごしています。

(Yahoo!知恵袋)

(3) 「～ても/～でも」：1例、25%

廃校っていっても、今は、俺の伯父さんが仕事部屋みたく使っていて、
水も通ってるし手入れもされてるし、ぜんぜん余裕で暮らせるんだ。

⑧ 「まし」：10 例

(1) 「明示的比較形式」：10 例、100%

(問) 「豆乳クッキーダイエット」試された方いらっしゃいませんか？
私はダイエット系の食べ物（飲み物も）をいくつか試しましたが、どれもまずくて続きませんでした。これはおいしいのでしょうか？また効果はあるのでしょうか？（以下略）

(答) 私も飲み物系を試して、どうしても味がだめで、豆乳クッキーを見つけました。9日分続けましたが、んーたしかに満腹感はあるかもしれないけど、続けていくうちに飽きてしまった感じです。味はまあまあおいしいですよ。飲み物系より全然ましです。

(Yahoo!知恵袋)

(2) 「～が/けど（けれど、けれども）/のに」：2 例、20%

私は去年の夏焼くつもりはなかったんですが、日焼けをしまして腕が少し黒くなったんですが、その後皮がむけて気がつけばぶつぶつとかがなくなっていました。今も、すこしざらざらですが全然ましです。

(Yahoo!知恵袋)

以上示した結果を表 8 のようにまとめる。

[表 8] 「ぜんぜん(全然)」と「平気」「大丈夫」「OK」「良い」「普通」「いける」「余裕」「まし」と共起しやすい言語形式の用例数・比率

	全用例数	①～ても/でも		②終助詞よ		③～が/けど /のに		④しかし/だ けど/でも		①～④ 総計	
平気	63	11	17.46%	6	9.52%	9	14.28%	7	11.11%	33	52.38%
大丈夫	51	8	15.68%	12	23.52%	6	11.76%	2	3.92%	28	54.9%
OK	64	14	21.87%	9	14.06%	5	7.81%	5	7.81%	33	51.56%
いい	56	6	10.71%	13	23.21%	0	0.0%	4	7.14%	23	41.07%
普通	16	3	18.75%	3	18.75%	3	18.75%	1	6.25%	10	62.5%
いける	6	1	16.66%	2	33.33%	0	0.0%	0	0.0%	3	50%
余裕	4	1	25%	1	25%	1	25%	0	0.0%	3	75%
まし	10	0	0.0%	0	0.0%	2	20%	0	0.0%	2	20%
合計	270	44	16.29%	46	17.03%	26	9.63%	19	7.04%	135	50%

表8に示したように、「ぜんぜん(全然)」と「平気」「大丈夫」「OK」「良い」「普通」「いける」「余裕」「まし」という肯定表現と共起する場合には、

- ① 「～ても/でも」
- ② 「よ」
- ③ 「～が/けど (けれど、けれども) /のに」
- ④ 「しかし/だけど/でも」

という四つの言語形式が見られやすく、ほとんど半数以上を占めることが分かる。したがって、先行研究で指摘された「明示的比較形式」のほかに、上記のような現れやすい言語形式がある。

また、「明示的比較形式」が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいということは先行研究で指摘された。本稿は先行研究(服部 2007)と違うコーパス(BCCWJ)を使い、「明示的比較形式」が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起する用例数と比率を表9に示す。本稿の調査では「明示的比較形式」は「いい」「まし」という表現と共起する以外に、ほかの「平気」「大丈夫」「OK」「普通」「いける」「余裕」という表現とはまったく共起しなく、服部(2007)と同じ結果が見られた。

[表9] 「ぜんぜん(全然)」が「平気」などの表現と共起する場合の「明示的比較形式」を伴う用例数・比率

	全用例数	比較形式(例数)	比較形式(比率)
平気	63	0	0.0%
大丈夫	51	0	0.0%
OK	64	0	0.0%
いい	56	25	44.64%
普通	16	0	0.0%
いける	6	0	0.0%
余裕	4	0	0.0%
まし	10	10	100%

合計	270	35	12.96%
----	-----	----	--------

表9を見ると、「明示的比較形式」と「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の共起は「いい」「まし」などに限られ、それ以外の「平気」「大丈夫」「OK」「普通」「いける」「余裕」などの表現とはまったく共起しないということがわかった。「平気」「大丈夫」「OK」「普通」「いける」「余裕」のような肯定表現は前述したように「～ても/でも」「よ」「～が/けど(けれど、けれども)/のに」「しかし/だけど/でも」という四つの言語形式と共起しやすいのである。続いて、4.3.2節では、その四つの言語形式と「明示的比較形式」が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について述べる。

4.3.2 「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由

「～ても/でも」・「よ」・「～が/けど(けれど、けれども)/のに」・「しかし/だけど/でも」・「明示的比較形式」という五つの言語形式は共に「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい。その五つの言語形式には何らかの共通点があると思われる。そういう共通点が存在するからこそ、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいのである。したがって、以下ではそれらの言語形式の共通点を考察してみる。

まずは、「～ても/でも」を見る。「～ても/でも」は、仁田他(2011)によると、逆条件節であり、逆接の仮説条件を表す代表的な形式であると指摘されている。仁田は以下のような例を取り上げている。

(1) 薬を飲んでも、熱は下がらないだろう。 仁田他(2011:146)

例(1)は「薬を飲めば熱は下がるだろう」という因果関係が予測されることが暗示され、二つの事態の間に予測された因果関係が実現しないだろうという仮定的な意味が表されている。「～ても/でも」は「逆条件節」とされ、おもに二つの事態の間に予測された因果関係が実現しないあるいは成立しな

いという仮定的な場合を表すと指摘されている。4.3.1 節で取り上げた「ぜんぜん(全然)+肯定表現」が「～ても/でも」と共起する次の例を見る。

(2) 俺は基本的に、一人でも全然平気なタイプです。 (Yahoo!ブログ)

(2) の文では話者が「一人で大変だ」という社会通念で認められる事実を前提にし、その前提を否定するために「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる。第3章で述べたように「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者自身が想定した前提を否定する際に用いられる。(2) では「～ても/でも」を用いると、「一人だったら、大変だ」という因果関係を否定することになり、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」の条件を満たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」に「～ても/でも」が多く現れるのである。

次に、「よ」を見る。「よ」は、仁田他(2009)によると、伝達を表す終助詞であり、その文が表す内容を、聞き手が知っているべき情報として示すという伝達態度を表す。また、「よ」の機能がもっとも端的に表れるのは、聞き手が気づいていない事態に対して注意を向けさせようとする文に付加される例であると述べられ、以下のような例が取り上げられている。

(3) [運転者に]赤信号だよ。ちゃんと前を向いて運転してよ。

仁田他(2009:242)

例(3)は聞き手が知っているべき情報を示し、注意を促す。「よ」のない文は、話し手が気がついたことを独話的に口にしたというだけで、聞き手に注意を促そうという機能が感じられないと指摘されている。4.3.1 節で取り上げた「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と終助詞「よ」と共起する例を見ると、以下のようにその文が表す内容を、聞き手が知っているべき情報として示し、聞き手が気づいていないあるいは予測していないことに対して注意を促すという伝達態度を表すことがわかる。

(4) (問) ミスタードーナッツにおっさん一人で買いに行けますか？

(答) 全然行けますよお～ (^ 0 ^) /行って下さいなあ～！！

(Yahoo!知恵袋)

(4) では話し手が聞き手の質問から「ミスタードーナッツにおっさん一人で買いに行けない」という情報を読み取るが、「一人で行ける」という違う意見を伝えたいので、ここでは相手の注意を促す「よ」という表現を使う。第3章で述べたように「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を否定する際に用いられる。会話の場合は話し手の想定した前提は聞き手の質問などから形成されるものなので、それを否定する場合、相手と違う意見を述べることになる。そのため、相手の注意を促す終助詞「よ」がよく使われるのである。

次に、「～が/けど(けれど、けれども)/のに」を見る。「～が/けど(けれど、けれども)/のに」は、仁田他(2011)によると、逆接節であり、形式間の違いを持つが、いずれも予測される因果関係が成立しなかったという事実を表すと指摘されている。また、以下のような例が取り上げられている。

(5) 薬を飲んだ{のに/けれど/が}、熱は下がらなかった。

仁田他(2011:156)

例(5)は「薬を飲めば熱は下がるだろう」という因果関係が予測されていることが暗示され、二つの事態の間に予測された因果関係が実現しなかったという事実が表されている。「～が/けど(けれど、けれども)/のに」は「逆接節」とされ、おもに二つの事態の間に予測された因果関係が実現しなかったあるいは成立しなかったというすでに事実的な場合を表すと指摘されている。

4.3.1節で取り上げた「ぜんぜん(全然)+肯定表現」が「～が/けど(けれど、けれども)/のに」と共起する次の例を見る。

(6) 秒さんが緊張して、テーブルの上に置いてあったオーデコロンの壺を倒してしまった。ますますとんでもない匂いになって、鼻がひん曲がってしまうかと思ったくらいなのに、彼女、全然平気な顔をしていたわ。

（『不安な童話』）

(6) の文では話者が「ますますとんでもない匂いになって、彼女は鼻がひん曲がる」という事実を前提にし、その前提を否定するために「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる。第3章で述べたように「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者自身が想定した前提を否定する際に用いられる。(6) では「～が/けど(けれど、けれども)/のに」を用いると、「ますますとんでもない匂いになれば、鼻がひん曲がるだろう」という因果関係を否定し、二つの事態の間に予測された因果関係が実現しなかったという事実を表すことになる。そして、それは「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」に「～が/けど(けれど、けれども)/のに」が多く現れるのである。

次に、「しかし/だけど/でも」を見る。「しかし/だけど/でも」は、仁田他(2009)によると、逆接の接続表現であり、いずれも後続部が先行部から予測される結果に反することを示すもっとも一般的な形式であると指摘されている。以下のような例が取り上げられている。

(7) その料理はすごくおいしかったんです。{しかし/だけど/でも}半分くらい食べてあとは我慢しなくちゃいけなかったんです。女房が、カロリーオーバーだって言うもんですからね。 仁田他(2009:79)

例(7)は先行部から予測される結果(おいしかった→食べきる)に反して後続部の内容が起こったことを表している。「しかし/だけど/でも」のこの用法は、「反予測」とされ、ある原因から予測される結果が実現しないこ

とを示すという。4.3.1節で取り上げた「ぜんぜん(全然)+肯定表現」が「しかし/だけど/でも」と共起する例を再び見ると、以下のように先行部から予測される結果に反して後続部の内容(全然+肯定表現)が起こったことを表すということがわかる。

(8) (問) いろいろあって今日、彼氏と別れました。あたしから別れを切り出しました。でもへこんでます(そういう事しか言えない状況だったので)この年齢ですが、これから先 新しい彼氏はできるのかしら?不安です。。 ☆二十八才 女☆

(答) 女って1つの区切りとして三十までに・・・と思いがち<>確かに三十超えるとなんだか不安。だけど全然大丈夫^^ある意味三十までにまた恋愛ができるなんてHAPPYじゃない! 頑張れ~!!

■ (Yahoo!知恵袋)

(8)の文では話し手が聞き手の質問から「三十才に近い女性はもう恋愛ができない」という情報を読み取るが、その命題に対して異なる意見を持っている。その意見に反論するために、上記の情報を前提として想定し、それを否定するのに「全然大丈夫」という表現を使うと思われる。第3章で述べたように「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者が自ら想定した前提を否定する際に用いられる。(8)では「しかし/だけど/でも」を用いると、「三十才に近い女性はもう恋愛ができない」という先行部から予測される結果を否定し、その予測の結果に反する後続部の内容が起こったということを表すことになる。そのように、それは「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」に「しかし/だけど/でも」が多く現れるのである。

最後に、「明示的比較形式」を見る。「明示的比較形式」は、服部(2007)

によると、「～より、～比べて」（及び、これらの変種「～よりも、～に比べると」など）の形で比較対象を明示するもの、および、「～（の）方が」を伴って、比較であることが明示されるものであると指摘されている。以下のような例が取り上げられている。

(9) 何も食べないより全然マシです！ 服部（2007：4）

例（9）は比較対象（何も食べないこと）が明示されている。

「AよりBのほうが～」・「～（の）方が」という「明示的比較形式」について、森田（1980）は「二者を比較して、より程度の上（または下）である側を判断する。「ほう」は程度の優る（または劣る）側の対象を指す」、また「程度副詞が付けられる点の特徴である」と指摘している。森田は以下の例を挙げている。

(10) 映画を見るより音楽を聞くほうがいい。 森田（1980：426）

例（10）は映画を見ることと音楽を聞くこととを比べ、より程度の上（いい）である側を判断し、「音楽を聞く」ほうが程度の優る側としている。

4.2節で述べたように、服部は表2を取り上げ、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」のうち、「いい」「まし」は「明示的比較形式」と共起しやすいと述べている。しかし、その理由については述べていない。本稿は「明示的比較形式」が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすい理由について以下のよう考える。

4.3.1節で取り上げた「ぜんぜん(全然)+肯定表現」が「明示的比較形式」と共起する例を見る。

(11) (問)「豆乳クッキーダイエット」試された方いらっしゃいませんか？
私はダイエット系の食べ物（飲み物も）をいくつか試しましたが、どれもまずくて続きませんでした。これはおいしいの

でしょうか？また効果はあるでしょうか？（以下略）

（答）私も飲み物系を試して、どうしても味がだめで、豆乳クッキーを見つけました。9日分続けましたが、んーたしかに満腹感はあるかもしれないけど、続けていくうちに飽きてしまった感じですよ。味はまあまあおいしいですよ。飲み物系より全然ましです。

（Yahoo!知恵袋）

(11) の文では話者が「飲み物系のほうが手軽でいい」という想定した事実を前提にし、その前提を否定するために「ぜんぜん(全然)+肯定表現」を用いる。第3章で述べたように「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は話者自身が想定した前提を否定する際に用いられる。(11) では「飲み物系より(豆乳クッキーのほうが)全然まし」のように「明示的比較形式」を用い、一方の比較対象(豆乳クッキー)がもう一方の比較対象(飲み物系)より優れていることを表わす。これはつまり一方の比較対象(ここでは飲み物系)を否定することになる。このように、「明示的比較形式」を使用すると、一方の比較対象を否定する働きがあり、これは「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすと考えられる。したがって、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」に「明示的比較形式」が多く現れるのである。

以上のように、「～ても/でも」・「よ」・「～が/けど(けれど、けれども)/のに」・「しかし/だけど/でも」・「明示的比較形式」という五つの言語形式について考察した。その五つの言語形式には「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすという共通点があると考えられる。そのような共通点を持っているため、その五つの言語形式は「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいのであろう。

以上では、「～ても/でも」・「よ」・「～が/けど(けれど、けれども)/のに」・「しかし/だけど/でも」・「明示的比較形式」という五つの言語形式が「ぜん

ぜん(全然)＋肯定表現」と共に現れやすい理由について述べた。

4.4 本章のまとめ

この章においては、明示的比較形式(「～より、～比べて」、「～よりも、～に比べると」など)のほかに、

- ①「～ても/でも」
- ②「よ」
- ③「～が/けど(けれど、けれども)/のに」
- ④「しかし/だけど/でも」

という四つの言語形式が「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」と共起しやすいことが判明した。本稿は「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」と共に現れる「～ても/でも」・「よ」・「～が/けど(けれど、けれども)/のに」・「しかし/だけど/でも」・「明示的比較形式」という五つの言語形式の例文を提示し、それぞれの用例数・比率を表8・表9に示した。

また、「～ても/でも」・「よ」・「～が/けど(けれど、けれども)/のに」・「しかし/だけど/でも」・「明示的比較形式」という五つの言語形式の共通点について考察した。その五つの言語形式には「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」の使用に必要とされる「前提を否定する」という条件を満たすという共通点が存在することが判明した。その共通点が存在するため、「ぜんぜん(全然)＋肯定表現」と共に現れやすいのである。

次の第5章では、本研究の結果をまとめ、結論する。

第5章 結論

5.1 本稿の結論

本稿は肯定表現と共起する「ぜんぜん(全然)」について考察した。各章の結論をまとめると、以下の通りである。

まず、第2章では現代日本語書き言葉均衡コーパスを通して、「ぜんぜん(全然)」と共起する例を5872個集め、その中に「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現は1591例もあることが判明した。「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現を「マイナス評価を持つ語」、「異なる類」、「その他」という三つのグループに分け、それぞれの用例数と比率をまとめた。そして、「その他」における語を品詞で分類し、「動詞グループの特徴」は「可能動詞、状態を表わす動詞、及び程度性を持つ動詞が多い」、「形容詞グループの特徴」は「ほとんど程度性を持つ語であり、プラス評価を表わす語が多い」、「名詞グループの特徴」は「程度性を持つ形容詞の表現に言い換えられる」ということが明らかとなった。その全体に共通した特徴は「「ぜんぜん(全然)」と共起する語はほとんど程度性を持ち、この場合の「ぜんぜん(全然)」は程度のはなはだしさを表わす」ということである。また、「ぜんぜん(全然)」の共起傾向を示し、「ぜんぜん(全然)」は肯定形式と共起する場合、主に「程度副詞」として働くと結論付けた。

そして、第3章では、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが判明した。「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は、「とても」「非常に」と同様に「程度のはなはだしさを修飾する」という意味があるが、「とても」「非常に」には見られない「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが明らかとなった。また、野田(2000)が述べていないアンケート調査の結果が見られる理由について、本稿が主張した「話者が自ら想定した前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法と関連していることが判明した。さらに、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」がその意味用法を持つのは、「ぜんぜん(全然)+否定表現」という典型的な用法と関連していることを述べた。「ぜんぜん(全然)」が持つ「話し手の全面否定という態度を表し、打ち消す気持ちを強調する」とい

う基本的な用法から「話者が自ら想定した前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の意味用法が派生されたと考えられる。

第4章では、明示的比較形式(「～より、～比べて」、「～よりも、～に比べると」など)のほかに、①「～ても/でも」②「よ」③「～が/けど(けれど、けれども)/のに」④「しかし/だけど/でも」という四つの言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいことが判明した。また、「明示的比較形式」を含め、その五つの言語形式が「ぜんぜん(全然)+肯定表現」とともに現れやすい理由について考察した。その五つの言語形式は「前提を否定する」という「ぜんぜん(全然)+肯定表現」の使用条件を満たしているため、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」と共起しやすいのである。

以上の結論から、肯定形式と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」は主に「程度性を持つ語」と共起し、「程度副詞」としての機能が働くということが分かった。また、「ぜんぜん(全然)+肯定表現」は「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持ち、明示的比較形式のほかに、「～ても/でも」「よ」「～が/けど(けれど、けれども)/のに」「しかし/だけど/でも」という四つの言語形式と共起しやすいことが明らかとなった。次の節では、今後の課題について述べる。

5.2 今後の課題

本稿は、肯定形式と共起する場合の「ぜんぜん(全然)」と類義関係にある表現(「とても」「非常に」)を取り上げて比較した。肯定形式と共起する場合、「ぜんぜん(全然)」は、「とても」「非常に」と同様に「程度のはなはだしさを修飾する」という意味があるが、「とても」「非常に」には見られない「話者が自ら想定した前提を否定する」という意味用法を持つことが明らかとなった。一方、否定形式を呼応する場合、「ぜんぜん(全然)」と類義関係にある表現は、次のように取り上げられている。鈴木(1972)は、「ぜんぜん(全然)」は「まったく」と同じ、文にあらわされた内容に対する話し手の「全面否定」の態度をあらわすと指摘している。そして、森田(1977)は、「ぜんぜん(全然)」の関連する副詞として「さっぱり」、「まったく」を取り上げている。このように、否定

形式を呼応する場合の「ぜんぜん(全然)」と類義関係にある表現として、「さっぱり」、「まったく」が取り上げられている。

しかし、「ぜんぜん(全然)～ない」が「さっぱり～ない」、「まったく～ない」にすべて言い換えられるとは限らない。たとえば、以下のような例がある。

(1) {ぜんぜん(全然)/*さっぱり} 悪くない。 (作例)

(2) {ぜんぜん(全然)/*まったく} 食べきれない。 (作例)

また、(3)の例のように、「ぜんぜん(全然)～ない」が「さっぱり～ない」、「まったく～ない」に言い換えられても、それぞれのあらわすニュアンスが異なると思われる。

(3) ドアは {ぜんぜん(全然)/さっぱり/まったく} しまらない。 (作例)

否定形式を呼応する場合の「ぜんぜん(全然)」と類義関係にある表現（「さっぱり」、「まったく」など）を取り上げて比較し、それぞれの意味用法がどう違うかを考察する必要があるが、今後の課題にしたい。

最後に、2.4.3節で言及したように、「ぜんぜん(全然)」がほかの程度性を持たない肯定表現（たとえば、「行く」など）と共起する例もいくつかあるが、その場合の「ぜんぜん(全然)」はどのような副詞として働いているのかは、まだ検討する余地がある。その点についても、今後の課題にしたい。

付録：「ぜんぜん(全然)」と共起する肯定表現

1.	違う	853 例
2.	だめ	109 例
3.	別	67 例
4.	別○/別○○ ²³	20 例
5.	OK	64 例
6.	平気	63 例
7.	いい	56 例
8.	大丈夫	51 例
9.	無○/無○○ ²⁴	27 例
10.	変わる	21 例
11.	変える	2 例
12.	普通	16 例
13.	まし	10 例
14.	アリ	7 例
15.	ある	5 例
16.	いける	6 例
17.	安い	5 例
18.	不○/不○○ ²⁵	5 例
19.	異なる	4 例
20.	異にする	1 例
21.	余裕	4 例
22.	低い	4 例

²³別○/別○○：別物 7 例、別人 3 例、別個 3 例、別種 2 例、別途 1 例。

別次元 2 例、別平面 1 例、別種類 1 例。

²⁴無○/無○○：無視 5 例、無名 2 例、無償 1 例、無能 1 例、無用 1 例、無理 1 例。

無関係 5 例、無関心 3 例、無意味 3 例、無感覚 1 例、無宗教 1 例、無頓着 1 例、無防備 1 例、無反応 1 例。

²⁵不○/不○○：不明 1 例、不備 1 例。

不可能 2 例、不同意 1 例。

23.	逆	3 例
24.	反対	3 例
25.	正反対	2 例
26.	同じ	3 例
27.	同○/同○○ ²⁶	3 例
28.	まとも	3 例
29.	少ない	3 例
30.	強い	3 例
31.	凄い	3 例
32.	元気	3 例
33.	綺麗	3 例
34.	新しい	4 例
35.	一致する	2 例
36.	楽	2 例
37.	つまらない	2 例
38.	おいしい	2 例
39.	早い	2 例
40.	静か	2 例
41.	非○○ ²⁷	2 例
42.	虚偽	2 例
43.	嘘	2 例
44.	がたがた	2 例
45.	悪い	2 例
46.	かわいい	2 例
47.	かわいらしい	1 例
48.	かっこいい	2 例

²⁶同○/同○○：同意 1 例。

同一物 1 例、同意見 1 例。

²⁷非○○：非効率 1 例、非常識 1 例。

49.	かつこ悪い	1 例
50.	見当違い	2 例
51.	見当はずれ	1 例
52.	間違う	2 例
53.	食い違う	1 例
54.	空く	2 例
55.	慣れる	2 例
56.	～やすい ²⁸	2 例
57.	～がたい ²⁹	1 例
58.	～たい ³⁰	2 例
59.	～直す ³¹	2 例
60.	失う	2 例
61.	一般的	1 例
62.	優しい	1 例
63.	楽しい	1 例
64.	甘い	1 例
65.	遅い	1 例
66.	暖かい	1 例
67.	重い	1 例
68.	若い	1 例
69.	高い	1 例
70.	ゆるい	1 例
71.	ひどい	1 例
72.	でかい	1 例
73.	おかしい	1 例

²⁸ ～やすい：住みやすい 1 例、吹きやすい 1 例。

²⁹ ～がたい：とりがたい 1 例。

³⁰ ～たい：見たい 1 例、洗い去りたい 1 例。

³¹ ～直す：見直す 1 例、やり直す 1 例。

74.	うまい	1 例
75.	疎い	1 例
76.	ちっちゃい	1 例
77.	いやらしい	1 例
78.	嫌	1 例
79.	派手	1 例
80.	アウト・オブ・眼中	1 例
81.	おしゃれ	1 例
82.	スパルタ	1 例
83.	チンプンカンプン	1 例
84.	でたらめ	1 例
85.	ばらばら	1 例
86.	まだまだ	1 例
87.	ミスマッチ	1 例
88.	ノーマーク	1 例
89.	びっくり	1 例
90.	めちゃくちゃ	1 例
91.	けっこう	1 例
92.	問題外	1 例
93.	急	1 例
94.	ゼロ	1 例
95.	好印象	1 例
96.	平和	1 例
97.	幸せ	1 例
98.	充分	1 例
99.	可能	1 例
100.	主観的	1 例
101.	公的	1 例

102.	未熟	1 例
103.	冷淡	1 例
104.	複雑	1 例
105.	快適	1 例
106.	独特	1 例
107.	独自	1 例
108.	初耳	1 例
109.	廃位	1 例
110.	素人	2 例
111.	下手	1 例
112.	架空	1 例
113.	皆無	1 例
114.	以下	1 例
115.	二の次	1 例
116.	赤ちゃん	1 例
117.	当たり前	1 例
118.	没〇〇 ³²	1 例
119.	学歴社会	1 例
120.	すっきりする	1 例
121.	垂れ流し	1 例
122.	ありえる	1 例
123.	取り去る	1 例
124.	入れ代わる	1 例
125.	盛り下がる	1 例
126.	心得る	1 例
127.	～かねる ³³	1 例

³²没〇〇：没交渉 1 例。

³³～かねる：賛成しかねる 1 例。

128.	終わる	1 例
129.	似る	1 例
130.	響く	1 例
131.	行く	1 例
132.	言う	1 例
133.	言える	1 例
134.	いる	1 例
135.	なる	1 例
136.	黙る	1 例
137.	従う	1 例
138.	足りる	1 例
139.	する	1 例
140.	できる	1 例
141.	楽しめる	1 例
142.	着られる	1 例
143.	断れる	1 例
144.	走れる	1 例
145.	使える	1 例
146.	見(ら)れる	1 例
147.	見える	1 例
148.	怠る	1 例
149.	離れる	1 例
150.	忘れる	1 例
151.	忘却する	1 例
152.	長持ちする	1 例
153.	理解する	1 例
154.	誤解する	1 例
155.	相反する	1 例

156.	支配する	1 例
157.	縮小する	1 例
158.	切離する	1 例
159.	実現する	1 例
160.	欠如する	1 例
161.	欠乏する	1 例
162.	信用できる	1 例
163.	そっぽ向く	1 例
164.	間に合う	1 例
165.	抜く	1 例
166.	抜ける	1 例
167.	乱す	1 例



参考文献（五十音順）

- 秋田恵美子（2005）「現代日本語の「ちょっと」について」 創価大学別科紀要 17、pp. 72-89
- 梅林博人（1994）「副詞「全然」の呼応について」 『国文学解釈と鑑賞』59:7、pp. 103-110、ぎょうせい
- 岡崎友子（2006）「程度を表す指示副詞について」 大阪大学大学院文学研究科紀要 46、pp. 65-87
- 岡本佐智子・斉藤シゲミ（2004）「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」 北海道文教大学論集 5、pp. 65-76
- 影山太郎（2008）『日英対照 動詞の意味と構文』 大修館書店
- 梶田優（2004）「＜周辺＞＜例外＞は周辺・例外か」 『日本語文法』4巻2号、pp. 3-23
- 加藤陽子（2010）『話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』 くろしお出版
- 柏木成章（2005）「「まだ」と「もう」」 大東文化大学紀要・人文科学 43、pp. 125-131
- 近藤泰弘（1997）「否定と呼応する副詞について」『日本語文法—体系と方法—』 ひつじ書房
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子（2000）『時・否定と取り立て』 岩波書店
- 北原保雄（2004）『問題な日本語』 大修館書店
- （2010）『日本語の形容詞』 大修館書店
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』 ひつじ書房
- （1999）「否定と呼応する副詞をめぐって—実態調査から—」 大阪大学文学部紀要 39、A69-A107
- 国広哲也（2006）『日本語の多義動詞—理想の国語辞典Ⅱ』 大修館書店
- 郡司隆男・阿部泰明・白井賢一郎・坂原茂・松本裕治（2004）『言語の科学 4 意味』 岩波書店
- 国立国語研究所（1985）『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』 秀英出版
- （1991）『副詞の意味と用法』 国立国語研究所

- 佐野 真一郎 (2010) 「『日本語話し言葉コーパス』を用いた「全然」の変化
の詳細化」 国際基督教大学、33-42
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法形態論』 むぎ書房
- 泉子・K・メイナード (2001) 『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現
性—』 くろしお出版
- 高橋太郎 (2003) 『動詞九章』 ひつじ書房
- 高見健一・久野すすむ (2006) 『日本語機能的構文研究』 大修館書店
- (2014) 『日本語構文の意味と機能を探る』 くろしお
出版
- 田窪行則 (1998) 『視点と言語行動』 くろしお出版
- 田窪行則・西山佑司・三藤博・亀山恵・片桐恭弘 (2004) 『言語の科学 7 談
話と文脈』 岩波書店
- 田中里実 (2006) 「陳述副詞と文末表現の共起関係—「きっと」「かならず」「ぜ
ひ」を出発点として—」 日本語教育方法研究会誌 vol. 13
▪ No. 2、pp. 50-51
- 田野村忠温 (2004) 「周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の考察—」
『日本語文法』 4 巻 2 号、pp. 24-37
- 茅野直子・秋元美晴・真田一司 (1993) 『外国人のための日本語例文・問題シリ
ーズ 1 副詞』 鴻儒堂出版社
- 寺村秀夫 (1998) 『寺村秀夫論文集Ⅱ —言語学・日本語教育編—』 くろし
お出版
- (2003) 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』 くろしお出版
- 杜宜衿 (2011) 「副詞「よく」の意味用法—類義の副詞との比較を中心に—」
国立政治大学日本語学科修士論文
- 西原鈴子・川村よし子・杉浦由紀子 (1994) 『外国人のための日本語例文・問題
シリーズ 5 形容詞』 荒竹出版
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 仁田他 (2007) 『現代日本語文法 3』 第 5 部アスペクト 第 6 部テンス 第 7
部肯否 くろしお出版

- (2009) 『現代日本語文法 4』 第 8 部モダリティ くろしお出版
- (2011) 『現代日本語文法 6』 第 11 部複文 くろしお出版
- (2009) 『現代日本語文法 7』 第 12 部談話 第 13 部待遇表現 くろしお出版
- 野田春美 (2000) 「「ぜんぜん」と肯定形の共起」 計量国語学第二十二巻第五号、P. 169-P. 182
- 服部匡 (2007) 「大規模コーパスを用いた副詞「全然」の共起特性の調査—朝日新聞と Yahoo! 知恵袋の比較—」 同志社女子大学学術研究年報 58、1-8
- 林雅子 (2004) 「情態副詞をめぐって」 龍谷大学国際センター研究年報 第 13 号、P. 3-P. 14
- 朴秀娟 (2010) 「否定とも肯定とも共起する副詞「とても」について：否定用法に見られる「条件づけ」を中心に」 大阪大学日本語研究 22、P. 43-P. 63
- 益岡隆志・田窪行則 (1989) 『基礎日本語文法』 くろしお出版
- 村木新次郎 (2012) 『日本語の品詞体系とその周辺』 ひつじ書房
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語 1』 角川書房
- (1980) 『基礎日本語 2』 角川書房
- (1981) 『日本語の発想』 冬樹社
- (1984) 『基礎日本語 3』 角川書房
- (1989) 『日本語をみかく小辞典＜形容詞・副詞篇＞』 講談社
- (1996) 『意味分析の方法—理論と実践—』 ひつじ書房
- (2010) 『動詞・形容詞・副詞の事典』 東京堂出版
- 森本順子 (1994) 『話し手の主観を表す副詞について』 くろしお出版
- 八亀裕美 (2008) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』 明治書院
- 山岡政紀 (2003) 『日本語の述語と文機能』 くろしお出版
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』 ひつじ書房

- 吉永尚（2008）『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』 和泉書院
頼錦雀（2005）『日本語次元形容詞研究』 致良出版社
——（2007）『日本語心象形容詞研究』 致良出版社

